

公益社団法人

# 全国柔道整復学校協会

## 会報

令和8年1月

第77号

- ◆ 会長新年のご挨拶
- ◆ 令和7年度 柔道整復師専科教員認定講習会 東京会場 開催報告
- ◆ 令和7年度 柔道整復師専科教員認定講習会 大阪会場 開催報告
- ◆ 第67回 教員研修会開催報告
- ◆ わが街の見どころ聞きどころ（関西医療学園専門学校）
- ◆ 教員紹介リレー（東洋医療専門学校 姫 将司 先生）

# 柔道整復学校養成施設倫理綱領

## 主 旨

公益社団法人全国柔道整復学校協会は、質の高い柔道整復師育成を以って国民の保健衛生の向上に寄与するため、柔道整復師養成施設（以下「学校」という）の倫理綱領を定める。

### 1. 学校の使命

学校は、国民の保健衛生の向上に寄与する柔道整復師を養成することを使命とし、建学の精神と理念を実践し、教育水準の維持及び質の向上に努める義務と社会的責務を全うするものとする。

### 2. 教育水準の維持及び質の向上

学校は、常に教員の資質の向上と教育内容の充実を図るとともに、多種多様な分野に対応し得る質の高い専門的教育を推進し、社会に求められる柔道整復師の育成に努める。

### 3. 自主性と他校連携

学校は、建学の精神と理念に基づき自主性をもった学校運営を行う中で、教育水準の維持及び質の向上を念頭に、他校とも連携し、社会に貢献できる柔道整復師を育成することに努める。

### 4. 法令等の遵守

学校は、養成施設指定規則及び指導ガイドライン並びにその他の法令を遵守すると同時に、公序良俗に違反する行為を排し、柔道整復師養成施設としての社会的責務を果たす中で、国民からの信頼と期待を得ることに努める。

### 5. 学校評価の推進

学校は、質の高い教育とよりよい教育環境の整備と充実を図るため、自己点検・自己評価の実施はもとより、第三者評価にも積極的に取り組み、同時にこれに基づいた情報公開を行うことで、透明性の高い学校運営に努める。

平成 29 年 12 月

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

# 会報



令和8年 ● 第77号

## 目次

頁

会長新年のご挨拶 .....	2
令和7年度 柔道整復師専科教員認定講習会 東京会場開催報告 .....	3
令和7年度 柔道整復師専科教員認定講習会 大阪会場開催報告 .....	4
第67回 教員研修会 開催報告 .....	5

### 【理事会議事録】

・ 令和7年度 第6回、第7回、第8回 .....	12
---------------------------	----

### 【委員会の状況】

・ 教育支援委員会教科書部会	
令和7年度 第2回部会議事録 .....	27
・ 教育支援委員会教員研修等部会	
令和7年度 第2回部会議事録 .....	28
・ 教育支援委員会専科教員認定講習部会	
令和7年度 第4回部会、第5回部会議事録 .....	30
・ 広報・調査委員会	
令和7年度 第3回委員会議事録 .....	35

### 【わが街の見どころ聞きどころ】

・ 関西医療学園専門学校 .....	38
--------------------	----

### 【教員紹介リレー】

・ 東洋医療専門学校 姫 将司 先生 .....	42
--------------------------	----

### 【各名簿】

・ 正会員一覧、学校理事長・校長・正会員名簿、賛助会員名簿、委員（部）会員名簿 .....	48
・ 編集後記 .....	57
・ 学校協会案内図	



## 新年のご挨拶

公益社団法人全国柔道整復学校協会

会長 谷口和彦

新年おめでとうございます。会員校の皆様には旧年中、当会事業に格別なるご高配を賜り心よりお礼申し上げます。

昨年は大阪・関西万博の開催や日本初の女性首相の誕生など、新しい未来を感じさせる出来事が特に印象的でした。世界に目を向けると国際秩序の不安定化など懸念事項はありますが、国内外ともに明るい話題に恵まれる一年であることを心から願っております。

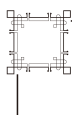
さて、会長任期も残すところ半年となりました。目標に掲げていたカリキュラム改訂の進捗については、昨年末に厚生労働省医事課担当者との事前協議を終えて以降、先方にて検討が進められている状況です。直近では「柔道整復師養成施設カリキュラムに関する調査」※が行われており、前回カリキュラム改正後の実態と課題を踏まえ、私たちの要望に対する妥当性を慎重に検証されているものと推察いたします。その上で次のステップである「柔道整復師学校養成施設カリキュラム等改善検討会」の開催に繋がるものと当会も大きく注視しているところです。

一方、並行して進めていた「柔道整復学モデル・コア・カリキュラム」においては、パブリックコメントに寄せられた意見を参考にしたうえで第8回理事会（令和7年11月21日開催）の議を経て策定いたしました。また「柔道整復学モデル・コア・カリキュラム」は私たちが思い描く新カリキュラムの土台でもあり国家試験出題基準に繋がる重要な役割を担うであろうことから、これらの共通認識と理解促進を図り、迅速かつ円滑な活用を支援するための「柔道整復学モデル・コア・カリキュラム活用ガイド」の作成準備を進めております。法的にカリキュラムが改正されるにはなお時間を要す見込みであることから、各養成施設の皆様におかれましては是非ともこれを自校のカリキュラム策定にご活用いただき、教育の質の向上と標準化に寄与されますことを強く願っております。

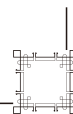
最後になりましたが本年が皆様方にとって佳き年となりますことを祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

※令和7年度 厚生労働行政推進調査事業補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「医療関係職種の養成施設及び養成教育の実態と課題解決に資する研究（25IA2007）」研究代表者：東京慈恵会医科大学 福島特命教授





# 令和7年度 柔道整復師専科教員認定講習会 東京会場 開催報告



主管校：学校法人滋慶学園 東京メディカル・スポーツ専門学校  
小関 孝男

令和7年度東京会場の柔道整復師専科教員認定講習会は5月11日に行われた受講試験を経て、19名の方が合格し受講することとなりました。受講期間は6月7日から10月18日までの約5か月間で、土日祝日を利用して実施いたしました。

本年度は本校が主管校となり、東京医療福祉専門学校ならびに東京呉竹医療専門学校の協力を得て実施されました。講義の中では、各分野の先生方が熱心に講義をされ、受講生の方々も一生懸命に取り組む姿が非常に印象的でした。講習会では医学系の講義の他に、教員として必要な知識・スキルである教育系の講義も行われ、受講生の方々は多くのことを学び、貴重な機会を得ることができたのでしょうか。

受講生全員が平日は仕事、休日は講習会という過密なスケジュールをこなされたわけですが、中には宮城や長野、熊本といった遠方から通う方もおり、移動に要する時間的、経済的、および肉体的な負担は多大であったと思われます。主管校としても天候不順などによる休講や延期等、心配な面もありましたが、幸い大きな影響もなく予定通りに日程を消化することができました。

そして、修了試験では19名全員が無事に合格され、また、その中で4名の方が皆勤されました。大変な苦労があったなか、素晴らしいことだと思います。本当にお疲れ様でした。

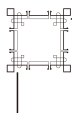
5ヶ月間という期間ではありますが、共に努力し、かけがえのない時間を共有した受講生の中には絆も生まれ、閉講式では名残惜しむ声も多く聞かれました。

今年度、晴れて専科教員となりました受講生の方々には、是非養成機関の教壇に立ち、未来の柔道整復師育成のため、また業界の益々の発展のためにご尽力頂きたいと思っています。同じ教員として我々も含めて切磋琢磨し後進の育成に邁進していきましょう。

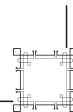
最後に、主管校として至らない点多々あったかと思いますが、無事に閉講を迎えることができましたのも、学校協会の方や、講義をご担当頂いた講師の先生方の多大なるご協力があったことでした。誠にありがとうございました。

講習会の運営にご協力いただきました皆様に感謝の言葉を申し上げるとともに、次年度主管校・協力校となる養成校にバトンをお渡しして、報告とさせていただきます。





# 令和7年度 柔道整復師専科教員認定講習会 大阪会場 開催報告



主幹校：明治東洋医学院専門学校

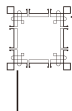
令和7年度の柔道整復師専科教員認定講習会大阪会場は、明治東洋医学院専門学校が主幹校となり、関西医療学園専門学校及び森ノ宮医療学園専門学校のご協力のもと、6月14日（土）の開講式から10月25日（土）の閉講式までの約4ヶ月にわたり実施され、滞りなく終了することができました。

本講習会を開催するにあたり、5月11日（日）に受講試験を実施し、26名が合格されました。昨年度から受講資格が見直され、実務経験4年以上5年未満の方も「受講対象B」として受講できるようになり、今年度は6名が受講されました。今年度の受講生は20代から60代と幅広い年齢層ではございましたが、すぐに打ち解けて仲良くなっておられたことは、講義前の時間や休憩時間の教室の様子を拝見していれば一目瞭然でした。また、修了試験日には試験開始時間の数時間前から多数の受講生が集まり、互いに教え合い一致団結していたことが印象的であり、その結果、26名全員が本試験で合格されました。また、受講生の皆さんは学校や治療院等でご勤務され、日々多忙の中、職場やご家族のご理解のもと専科教員資格取得を目標として受講され、8名が皆勤賞を受賞されましたことに心から敬意を表します。

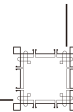
今後、柔道整復分野の教育に携わられる受講生の皆様におかれましては、様々な分野でご活躍されている医師や大学教員等の講師の先生から学んだことは、大変有意義な時間となったことと思います。また、これからは専任教員や非常勤講師等として、講習会で得た知識や経験を活かし、時には共に学んだ仲間と情報共有し、学生教育に貢献いただきたいと思います。

最後になりますが、講師の先生方や協力校の運営委員としてご尽力いただきました関係者の皆様方のおかげをもちまして、専科教員認定講習会を無事に終了できましたこと、心より感謝申し上げますとともに、受講生の皆様の今後ますますのご活躍を祈念いたしまして、大阪会場の報告とさせていただきます。





## 第67回 教員研修会開催報告



教育支援委員会教員研修等部会 部会長 葉山 直史

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 第67回教員研修会が令和7年9月27日（土）、28日（日）の両日、福岡国際会議場にて開催されました。

これまでの主幹校に代わり、教員研修会実行委員会が主幹して開催する初めての大会となりました。

開会式には、来賓として公益財団法人 柔道整復研修試験財団 今別府敏雄代表理事、公益社団法人 日本柔道整復師会 長尾淳彦会長、一般社団法人 日本柔道整復接骨医学会 塩川哲也理事、一般社団法人 柔道整復教育評価機構 関口正雄理事長、公益社団法人 福岡県柔道整復師会 塩川哲也会長、公益社団法人 佐賀県柔道整復師会 平野弘道会長、公益社団法人 熊本県柔道整復師会 立石勝也副会長にご臨席を賜りました。



開会式 谷口和彦会長

今回の教員研修会は、昨年の秋に会員校に実施したアンケートの結果を反映したプログラムの準備に努めました。また、これまでと変わった点として『出展企業講演』を初めて実施したこと、『研究助成発表』を主会場での発表としたことがあげられます。

開会式終了後、講演1へと移りました。『学科長のマネジメント“学校の運命は学科長が握っている”』の演題で、公益社団法人全国柔道整復学校協会 副会長 関口正雄先生にご講演いただきました。座長は同協会 会長 谷口和彦先生にご担当いただきました。講演では、学科長を『事業部長』として捉え、学修成果を中心にカリキュラムづくりや教員のまとめ

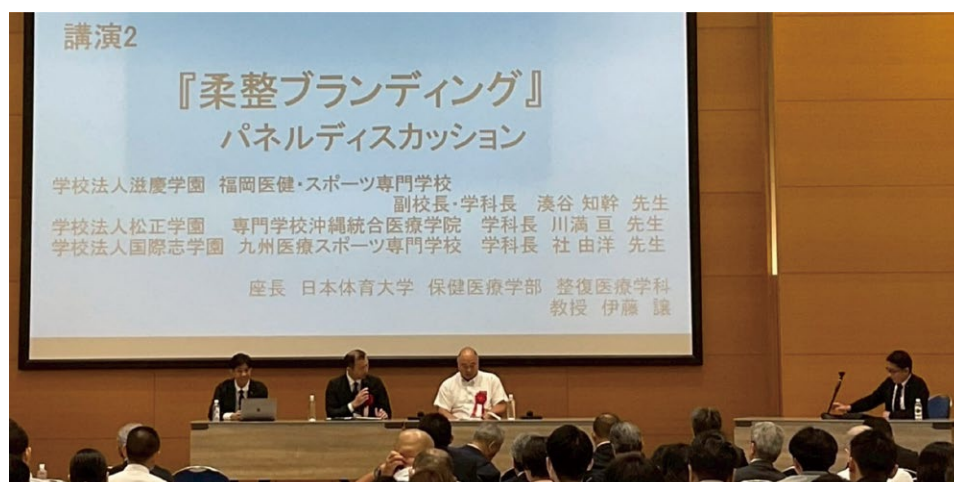


役としてのマネジメント、さらに学生募集や広報活動まで幅広い役割を担うことの重要性が語られました。専門学校教育の質を高め、社会からの信頼を得るために何が必要かを具体的に示していただき、学生第一の視点と強いリーダーシップのもとで学科運営を行うことの大切さを改めて感じる講演となりました。



講演1 関口正雄先生

講演2では、『柔整ブランディング』をテーマに、各校の学科長である、福岡医健・スポーツ専門学校の湊谷知幹先生、九州医療スポーツ専門学校の社 由洋先生、専門学校沖縄統合医療学院の川満 亘先生にそれぞれご講演いただきました。座長は、日本体育大学 保健医療学部 整復医療学科 教授の伊藤 譲先生にご担当いただきました。パネルディスカッション形式で各校の特色ある取り組みをご紹介いただき、「人としての在り方」「臨床力」「質の高い学生体験」など、様々な視点から学生教育の在り方や柔道整復師の魅力を高めるための方策について意見が交わされました。各校の具体的な実践を共有することで、教育現場における新たな気づきと今後の発展に向けた多くの示唆が得られました。



講演2 (パネルディスカッション)



続いて研究助成発表が行われました。教員研究発表としては十数年ぶりに主会場での発表となり、森ノ宮医療学園専門学校の馬場裕介先生と日本体育大学の祁答院隼人先生にご発表いただきました。座長は教員研修会実行委員会 委員長 葉山直史が担当しました。馬場先生は『筋腱移行部損傷における修復過程の組織学的解析』の演題で、柔道整復師が施術にあたることの多い筋腱移行部損傷について、モデルマウスを用いて修復過程を組織学的に観察することで、筋と腱が接合していく経時的変化と分子の発現局在について示されました。祁答院先生は『育成年代の競技者における睡眠を中心とした生活習慣と月経症状が外傷発生に及ぼす影響』の演題で、高校女子サッカー競技者を対象に4か月間にわたる調査を行いデータを収集、詳細に解析した結果、睡眠を中心とした生活習慣と月経症状が外傷の発生と密接に関連していることを明らかにし、育成年代の競技者に対する睡眠教育の重要性を示されました。



研究発表 馬場裕介先生



研究発表 祁答院隼人先生

研究助成発表終了後、出展企業講演の開催にあたり、参加者は第1から第3テーマのそれぞれの会場に分かれました。

第1テーマは、『国家試験合格を科学する～模擬試験データが語る合否の分かれ道～（模試データの活用法、不合格者の傾向分析、合格への道筋の見える化）』の演題で株式会社ジャパン国試合格 代表取締役 三田利幸先生にご講演いただきました。ジャパン模試柔整版の全6回分得点データと第33回柔道整復師国家試験の学校別合格者状況を分析することで、国家試験合格に向けた具体的指標を提示し、模擬試験データの有効性を示していただき、模擬試験データが各養成校の国家試験対策において有効活用される教育ツールとなりえることをご教授いただきました。

第2テーマは『日本の医療シミュレーション教育の25年と現在の柔整向けシミュレーター』の演題で日本ライトサービス株式会社 代表取締役 馬場 博先生にご講演いただきました。医療シミュレーション教育の歴史的変遷と柔整分野への応用について学ぶ貴重な機会となり、とくにシミュレーターの進化が臨床教育にもたらす可能性を考えさせられ、近年、実際に骨折や脱臼に遭遇する機会が激減しているなかで、より質の高い教育を実現するための具体的な方法を検討する示唆を得られました。教育効果を高めるため、最新技術

の活用を常に検討する必要性を感じました。

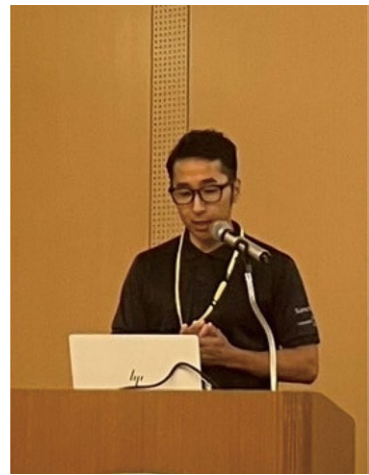
第3テーマは『ファシアアプローチとしてのフロッシング：そのエビデンスと教育的意義』の演題で株式会社サント・ジャパン 学術部マネージャーの梶原規寛先生にご講演いただきました。近年、スポーツ医療や徒手療法の分野で重要性が認識されている“ファシア”へのアプローチとして、次世代の手法である「コンプレフロスによるフロッシング」に焦点を当て、その理論的背景から最新のエビデンス、臨床現場での応用可能性について解説いただきました。さらに、柔道整復師養成教育の現場において、このフロッシングがいかにより学生の解剖学的理解と応用力を結びつけ、主体的学習を促すかという教育的意義についてもご教授いただきました。



第1テーマ 三田利幸先生



第2テーマ 馬場 博先生



第3テーマ 梶原規寛先生

出展企業講演にて一日目の研修を終了、多くの参加者が福岡国際会議場に隣接する福岡サンパレスホテル&ホールに移動して懇親会が開催されました。教員研修会実行委員会を代表して桑野幸仁 副会長よりご挨拶があり、公益社団法人 福岡県柔道整復師会 会長 塩川哲也先生に乾杯のご発声をいただいて懇親会が始まりました。今年も他校の先生と多くの交流をもつことが出来た懇親会となりました。中締めは公益社団法人 全国柔道整復学校協会 坂本 歩顧問にいただき、懇親会を終了しました。



乾杯のご発声 塩川哲也先生



懇親会の様子

2日目は9時から講演3と講演4が始まりました。

講演3では『魅力の伝承～柔道整復師～』について学校法人国際志学園 理事長 水嶋章陽先生にご講演いただきました。座長は九州医療スポーツ専門学校 教務部長 桑野幸仁先生にご担当いただきました。講演では「魅力とは価値である」との視点から、「柔道整復師の魅力とは何か」が語られ、人の自然治癒力を支える専門職としての役割、手を通じた安心と信頼、地域医療に根差した存在価値、これらは時代が変わっても失われない「価値」であると強調されました。また、魅力を伝承していくうえで教員自身の魅力が重要であり、「教員は伝承者」とのキーワードが大変印象的でした。「柔道整復師という職業の魅力をいかに次世代へ伝承していくか」。この問いかけは教育に携わるすべての者にとって大きな課題であり、参加者にとっても教育の在り方を見直す契機となりました。

講演4は、橋口浩治先生（IPU環太平洋大学・はしぐち整骨院）による『教育機関と臨床現場の融合を目指して』と題した講演が行われました。座長は福岡天神医療リハビリ専門学校 柔道整復学科 学科長 小川 勝先生にご担当いただきました。講演では、第5中足骨骨折を中心に、教科書的知識と整形外科専門医としての臨床判断の差異が具体的症例を通じて提示され、エコー観察や低出力超音波パルス（LIPUS）の有用性についても実践的な報告がなされました。また、健康保険法第87条を踏まえた療養費請求の実際、さらには鼻骨骨折や腰椎分離症といった「単純ならざる骨折」への対応についても触れられ、柔道整復師が直面する実務上の課題を多角的に考察する内容となりました。教育現場では伝えにくい臨床の実情を体系的に提示されたことで、教育と実務を架橋する重要性が再認識され、柔道整復教育の質の向上に大いに資する有意義な講演となりました。





講演3 水嶋章陽先生



講演4 橋口浩治先生

続いての教育講演では、『高齢者に対するエクササイズ介入の効果』として鹿屋体育大学スポーツ生命科学系 教授 藤田英二先生にご講演いただきました。座長は福岡医療専門学校 柔道整復科 学科長 喜多村伸明先生にご担当いただきました。介護保険を利用する高齢者を対象に、体力維持・筋力トレーニング・バランス能力の改善を目的とした運動介入の重要性とその効果について、藤田先生の長年にわたる研究から得られた豊富なデータと最新の知見を交えてご紹介いただきました。高齢者が自立した生活をするためには、「全身持久力」「身体組成」「筋力・筋持久力」「柔軟性」などで構成される「体力」が不可欠で、なかでも筋力はすべての身体活動の土台となる重要な要素であり、加齢による筋力低下は想像以上に急速で、継続的な運動が極めて重要であることが明快に示されました。参加者にとって大変興味深く学びの多い時間となり、講演後もフロアで藤田先生に多くの参加者が質問をしていました。



教育講演 藤田英二先生

協会報告では『改正学校教育法と第三者評価について』の演題で、公益社団法人全国柔道整復学校協会 副会長 関口正雄先生よりご報告がありました。講演では、令和8年4月施行の改正学校教育法により、専修学校専門課程の単位制への移行、特定専門課程・専攻科の創設、専門士・高度専門士の称号制度の見直しなどが示されました。さらに、教育の質保証の観点から、自己点検・評価の実施義務化と第三者評価の努力義務化の意義が解説され、柔道整復師養成校としても、教育課程の体系化と継続的改善を通じたマネジメント体制の強化が求められることが示唆されました。

講演終了後、閉会式が行われ、全国柔道整復学校協会 関口正雄副会長の閉会の辞をもって終了しました。



閉会の辞 関口正雄副会長

教員研修会実行委員会の主幹により開催された第67回教員研修会に参加された先生方にとって実り多きものになれば幸いです。また、至らぬ点もあったかと存じますが、参加された皆様の円滑な研修会運営へのご協力に深く感謝申し上げます。

第67回教員研修会の開催にあたり、ご来賓の皆様、全国柔道整復学校協会 谷口和彦会長をはじめ役員の皆様、教育支援委員会教員研修等部会の皆様、全国柔道整復学校協会会員の教職員の皆様方には多大なるご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

最後になりましたが、教員研修会実行委員の先生方をはじめ、当日の運営にご尽力をいただきましたスタッフの皆様のおかげで大過なく終えることができましたこと、この場をお借りしまして心より感謝申し上げます。

次年度第68回教員研修会は下記の通り開催を予定しております。万障お繰り合わせの上、ご参加いただきますようお願い申し上げます。

日 程：令和8年9月19日（土）・20日（日）

研修会会場：森ノ宮医療大学（大阪市住之江区南港北 1-26-16）

懇親会会場：同上（予定）



# 公益社団法人 全国柔道整復学校協会

## 令和 7 年度 第 6 回理事会議事録

1. 開催された日時 令和 7 年 9 月 19 日（金）13：00～15：59

2. 開催された場所 全国柔道整復学校協会事務局  
東京都港区浜松町 1－6－2 丸神ビル 1 階

3. 理事総数及び定足数 総数 9 名、定足数 5 名

4. 出席理事数 8 名

5. 議 長 会 長 谷 口 和 彦

### 6. 議 題

#### 協議・決議事項

第 1 号議案 柔道整復学教育モデル・コア・カリキュラム策定の件

第 2 号議案 次期カリキュラム改訂に向けた検討の件

#### 報告事項

第 1 号報告 代表理事の職務執行報告及び行事予定（9 月、10 月）の件

第 2 号報告 各委員会等

第 3 号報告 関連団体

第 4 号報告 その他

### 7. 議事の経過及びその結果

#### (1) 定足数の確認等

冒頭で事務局長より、理事総数 9 名中 8 名出席、1 名欠席であること。従って、開催要件の定足数たる過半数 5 名以上の出席を充足していることを確認した。

#### (2) 議案の審議状況及び議決結果等

定款第 32 条の規定に基づき、谷口会長が議長として本会議の成立を宣した。

議事録署名人は定款第 33 条第 2 項の規定に基づき、谷口会長、関口副会長、米田監事及び清水監事とし、議案の審議に移った。



## 協議・決議事項

### ①第1号議案 柔道整復学教育モデル・コア・カリキュラム策定の件

伊藤理事から、資料の「柔道整復学教育モデル・コア・カリキュラム活用ガイド」に基づき、モデル・コア・カリキュラムを学校協会として、これに従うというのではなく、活用して欲しいとの考えで当該利用ガイドを作成したとの趣旨説明があり、内容に対する議論が行われた。

谷口会長からは、学校協会としては、活用ガイドを有効活用して貫うために一歩進めることとし、組織運営委員会のオンライン研修会において活用ガイドの解説を数回シリーズとして行ってはどうかとの提案があり、議長として本議案について議場に諮ったところ、出席理事全員異議なくこれを承認し、本議題は継続審議となった。

### ②第2号議案 次期カリキュラム改訂に向けた検討の件

齊藤理事から、厚労科研費により慈恵医大の福島先生が行うアンケート調査について、資料に基づき柔道整復師学校養成施設に対する依頼文書が示され、調査スケジュールの説明があった。

谷口会長からは、改訂のための検討会を開催して貫うためにはもう少し時間を要するとの懸念は残るが、理事会終了後に学校協会から会員校に対して調査を依頼することについての提案があり、議長として本議案について議場に諮ったところ、出席理事全員異議なくこれを承認し、本議題は継続審議となった。

## 報告事項

### ①第1号報告 代表理事の職務執行報告と行事予定（9月、10月）の件

事務局長から、9月及び10月の各委員（部）会並びに学校協会等諸行事の予定を報告。

続いて、議長が質問並びに意見を求めたところ、出席理事全員異議なく報告のとおり了承された。

### ②第2号報告 各委員会等

#### ア. 教育支援委員会教科書部会

齊藤理事から、10月2日に教科書部会を開催する旨の報告があった。

内容としては、柔整学理論編第7版の部分改訂について部会員全員で共有し、4月の発刊に間に合うよう改訂すること、検査法動画についても合わせて意見を聞く予定であるとの説明があった。

#### イ. 教育支援委員会教員研修等部会

伊藤理事から、議事録に基づき研修会の準備状況の報告とフロー案内図によ

る会場の案内があった。

また、令和8年度学校運営改善等助成事業（研究助成）のご案内（案）に基づきテーマやスケジュールの説明があり、次回の理事会で確定させたいとの報告があった。

ウ．教育支援委員会専科教員認定講習部会

奥田理事から、今年度の専科教員認定講習会は、今のところ順調に進んでいるとの報告があり、修了試験の日程確認があった。

エ．教育支援委員会柔道整復師国家試験模擬試験部会

齊藤理事から、模擬試験への申込状況の経過報告があった。現時点で会員校24校783名、非会員校6校273名の計30校1,056名の申込。昨年より少ないが、昨年参加の未申込校があるので、昨年と同規模の申込は見込めるのではないかと説明があった。

谷口会長からは、学校協会の模擬試験は国試合否の指標にもなるので、会員校へ参加を促してはどうかとの意見があった。

オ．広報・調査委員会

大麻理事から、資料に基づき入学者の構成に関するアンケート調査の結果報告があった。

また、専科教員認定講習会の受講者増を如何にして図っていくか、検討材料を得るためのアンケートの実施について案が示され、講習会の閉講の際に行うことについて了承された。

カ．柔道委員会

廣岡理事から、9月4日の委員会議事録に基づき大会の反省事項、今後の検討課題と次年度計画の報告があった。内容としては、パンフレットの掲示方法の見直し、大会名横断幕の回数表示対応や次回大会における選手宣誓担当校の決定等について説明があり、柔道委員会において今後検討していくとのことであった。

次に、来年度の大会は、8月4日（火）に東京武道館の予約が確保できた旨の報告があったが、前日午後の会場の確保が出来ず、準備の関係で当日の開始時間変更の可能性について説明があった。

また、講道館への会場の変更については、規制等があって厳しいとの報告があった。

キ．組織運営委員会

田中理事から、年度内に第2回目のオンラインセミナーを開催したいというこ

とで、11月28日（金）にテーマを決めるための委員会を開催するとの報告があった。

続いて、議長が質問並びに意見を求めたところ、出席理事全員異議なく報告のとおり了承された。

### ③第3号報告 関連団体

#### ア.（公財）柔道整復研修試験財団

関口副会長から、テキスト小委員会で施術管理者研修を以前の対面による実施に戻すに当たり学校を使わせて貰うこと、その実施方法について議論があった旨の報告があった。

また、10月2日（木）の常任理事会において、国家試験の改善を検討するための検討委員会を立ち上げることが議題になっているとの報告があり、常任理事会に臨むに当たり、学校協会役員の意見も踏まえたいとのことで、9月26日（金）までに事務局へ意見出しをすることになった。

谷口会長からは、前日18日（木）に試験財団の安野事務局長の来訪があり、任期満了となる認定実技審査員の後任の選任依頼や次回の常任理事会で国試の改善検討委員会を議論すること等の話があった旨の報告があった。

#### イ.（一社）日本柔道整復接骨医学会

伊藤理事から、資料に基づき12月に予定されている学術大会の大会参加費特別補助チケットについての説明があり、学校協会の教員研修会プログラムのページに空きがあることから、学校協会としても協力する意味で無料掲載することが了承された。

#### ウ.（公社）日本柔道整復師会

特になし。

#### エ.（一社）柔道整復教育評価機構

関口副会長から、評価機構においても生成AIの導入を図って全体のコストを減らしていくこと、職業教育評価機構とも手法を共有していきたいとの報告があった。また、評価関係の支援も色々と出揃ってきており、職業教育評価機構と一緒にやっていくことにポイントを置きながら、来年度以降の統合版評価基準を策定するための評価基準委員会の開催を予定しているとの報告があった。

#### オ. 厚生労働省

事務局長から、第34回柔道整復師国家試験の公示について報告があった。



カ. 文部科学省

関口副会長から、文部科学省の資料に基づき改正学校教育法の省令告示とパブリックコメントに対する回答が8月28日に示されたとの報告があり、当該資料を次週の教員研修会における協会報告において使用するとの説明があった。

また、文部科学省の来年度予算の概算要求において、1億2千万円の評価関係支援が盛り込まれている旨の報告があった。

④第4号報告 その他

公益社団法人日本柔道整復師会から申請のあった第34回日整全国少年柔道大会を含む4大会の協賛名義の使用、また、一般社団法人日本柔道整復接骨医学会から申請のあった第34回学術大会の後援名義の使用について了承された。

次に、学校法人大川学園から理事長、学校法人福岡医療学院からは理事長、校長、正会員の変更の届出があり、「理事長、校長、正会員名簿」を9月4日付で更新した旨の報告があった。

続いて、議長が質問並びに意見を求めたところ、出席理事全員異議なく報告のとおり了承された。

以上をもって議案の審議等を終了したので、15時59分、議長は閉会を宣し解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した会長、副会長及び監事は記名押印する。

令和7年9月19日

会 長 谷 口 和 彦 印

副 会 長 関 口 正 雄 印

監 事 米 田 忠 正 印

監 事 清 水 尚 道 印



# 公益社団法人 全国柔道整復学校協会

## 令和 7 年度 第 7 回理事会議事録

1. 開催された日時 令和 7 年10月16日（木）15：00～17：12

2. 開催された場所 オークラアクトシティホテル浜松 3 階「桜」  
静岡県浜松市中央区板屋町 111－2

3. 理事総数及び定足数 総数 9 名、定足数 5 名

4. 出席理事数 9 名

5. 議長 会長 谷 口 和 彦

### 6. 議 題

#### 協議・決議事項

第 1 号議案 柔道整復学教育モデル・コア・カリキュラム策定の件

第 2 号議案 柔道整復師養成教育における臨床・臨地実習の件

第 3 号議案 令和 8 年度学校運営改善等助成事業（研究助成）の件

第 4 号議案 柔道整復研修試験財団 委員候補者推薦依頼の件

第 5 号議案 今年度（下半期）理事会等開催日程の件

#### 報告事項

第 1 号報告 代表理事の職務執行報告及び行事予定（10月、11月）の件

第 2 号報告 各委員会等

第 3 号報告 関連団体

### 7. 議事の経過及びその結果

#### (1) 定足数の確認等

冒頭で事務局長より、オンラインによる出席を含めて理事総数 9 名中全員が出席であること、したがって、開催要件の定足数たる過半数 5 名以上の出席を充足していることを確認した。

(2) 議案の審議状況及び議決結果等

定款第32条の規定に基づき、谷口会長が議長として本会議の成立を宣した。

議事録署名人は定款第33条第2項の規定に基づき、谷口会長、関口副会長、米田監事及び清水監事とし、議案の審議に移った。

協議・決議事項

①第1号議案 柔道整復学教育モデル・コア・カリキュラム策定の件

伊藤理事から、モデル・コア・カリキュラム（案）についてはパブリックコメントへの対応を現在進めているところであり、次回11月理事会で修正版を諮りたいとの状況報告があった。

次に、資料に基づき第三者評価を盛り込んだコア・カリの活用ガイド（案）の説明があり、関口副会長の意見に基づき、冒頭の「位置付け」にも第三者評価と教育の質保証に関する文言を盛り込むこととなり、更に意見がある場合は事務局に申し出る事となった。

議長は、本議案について議場に諮ったところ、出席理事全員異議なくこれを承認し、本議題は継続審議となった。

②第2号議案 柔道整復師養成教育における臨床・臨地実習の件

伊藤理事から、資料に基づき臨床・臨地実習の設計案について説明があり、これをたたき台とし、議論を踏まえた精査を行ったうえで再度理事会に諮ることとなった。

議長が本議案について議場に諮ったところ、出席理事全員異議なくこれを承認し、本議題は継続審議となった。

③第3号議案 令和8年度学校運営改善等助成事業（研究助成）の件

伊藤理事から、資料に基づき前年度からの変更箇所についての説明があった。

議長は本議案について議場に諮ったところ、出席理事全員異議なくこれを承認可決した。

④第4号議案 柔道整復研修試験財団 委員候補者推薦依頼の件

事務局長から柔道整復研修試験財団からの推薦依頼内容と現状の委員就任状況の説明があった。認定実技審査要領編集小委員会の委員については現行の認定実技審査委員の3名を推薦することとし、議長は本議案について議場に諮ったところ、出席理事全員異議なくこれを承認可決した。



⑤第5号議案 今年度（下半期）理事会等開催日程の件

事務局長から、資料に基づき下半期の理事会等の日程は当初の日程から変更がないことを説明。なお、12月については会員協議会を開催する方向で準備を進めることとし、議長は本議案について議場に諮ったところ、出席理事全員異議なくこれを承認可決した。

報告事項

①第1号報告 代表理事の職務執行報告と行事予定（10月、11月）の件

事務局長から、10月及び11月の各委員（部）会並びに学校協会等諸行事の予定が示され、議長が質問並びに意見を求めたところ、出席理事全員異議なく報告のとおり了承された。

②第2号報告 各委員会等

ア. 教育支援委員会教科書部会

齊藤理事から、

- ・柔道整復学・理論編の第7版については、部会員からの意見がまとまり、修正案を南江堂に渡しているので来年4月に部分改訂となる。検査法の動画についてもほぼまとまっており、出来次第会員校に案内できるようにすること
- ・第8版の理論編の内容について11月20日の教科書部会で南江堂も含めて議論する予定であること

との報告があった。

イ. 教育支援委員会教員研修等部会

伊藤理事から、第67回教員研修会のアンケート集計結果が示され、これから分析するとの説明があった。

ウ. 教育支援委員会専科教員認定講習部会

奥田理事から、部会及び修了試験合否判定会議の議事録に基づき、判定内容の報告があった。

エ. 教育支援委員会柔道整復師国家試験模擬試験部会

齊藤理事から、模擬試験の申込状況（会員校33校、非会員校11校、受験者1,740名）の報告があった。

オ. 広報・調査委員会

大麻理事から、10月28日（火）に第3回目の委員会を予定していること、学校

協会ホームページのバナーを教員研修会から専科教員認定講習会に戻したこと、鍼灸柔整新聞に掲載する専科教員認定講習会の広告を休止することの報告があった。

カ. 柔道委員会  
特になし。

キ. 組織運営委員会  
田中理事から、今年度第2回研修会実施計画について、12月11日（木）の委員会でテーマを検討することと、2月下旬から3月下旬に開催を予定していることの報告があった。

続いて、議長が質問並びに意見を求めたところ、出席理事全員異議なく報告のとおり了承された。

### ③第3号報告 関連団体

ア.（公財）柔道整復研修試験財団

関口副会長から、10月2日に開催された試験財団の常任理事会において、国家試験改善検討委員会が令和8年度に設置されること、国家試験に対する学校協会からの意見を説明したとの報告があった。

イ.（一社）日本柔道整復接骨医学会

伊藤理事から、非会員に対する学術大会参加費補助について、無条件で半額になったとの報告があり、参加の呼び掛けが行われた。

ウ.（公社）日本柔道整復師会  
特になし。

エ.（一社）柔道整復教育評価機構

関口副会長から、令和8年度評価事業の実施に向けて、統合版評価基準の検討を進めているとの報告があった。

オ. 厚生労働省  
特になし。

カ. 文部科学省

関口副会長から、文科省が示した評価基準のガイドラインを踏まえ、職業教育評価機構がマニュアルの作成を進めているとの報告があり、また、学校評価に対する東京都の支援や評価方式の動きについての状況説明があった。

④その他

関口副会長から、読売新聞の記事（国家試験受験資格の判決関係）が共有された。

続いて、議長が質問並びに意見を求めたところ、出席理事全員異議なく報告のとおり了承された。

以上をもって議案の審議等を終了したので、17時12分、議長は閉会を宣し解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した会長、副会長及び監事は記名押印する。

令和7年10月16日

会 長 谷 口 和 彦 印

副 会 長 関 口 正 雄 印

監 事 米 田 忠 正 印

監 事 清 水 尚 道 印

# 公益社団法人 全国柔道整復学校協会

## 令和7年度 第8回理事会議事録

1. 開催された日時 令和7年11月21日（金）14：00～16：07

2. 開催された場所 全国柔道整復学校協会事務局  
東京都港区浜松町1－6－2丸神ビル1階

3. 理事総数及び定足数 総数 9名、定足数 5名

4. 出席理事数 9名

5. 議長 会長 谷口和彦

### 6. 議題

#### 協議・決議事項

第1号議案 柔道整復学教育モデル・コア・カリキュラム策定の件

第2号議案 令和8年度 専科教員認定講習会の件

第3号議案 会員協議会等開催の件

#### 報告事項

第1号報告 代表理事の職務執行報告及び行事予定（11月、12月）の件

第2号報告 各委員会等

第3号報告 関連団体

### 7. 議事の経過及びその結果

#### (1) 定足数の確認等

冒頭で事務局長より、オンラインによる出席を含めて理事総数9名中全員が出席であること、したがって、開催要件の定足数たる過半数5名以上の出席を充足していることを確認した。



(2) 議案の審議状況及び議決結果等

定款第32条の規定に基づき、谷口会長が議長として本会議の成立を宣した。

議事録署名人は定款第33条第2項の規定に基づき、谷口会長、関口副会長、米田監事及び清水監事とし、議案の審議に移った。

協議・決議事項

①第1号議案 柔道整復学教育モデル・コア・カリキュラム策定の件

伊藤理事から、資料に基づきモデル・コア・カリキュラム（案）と指定規則・国家試験出題基準との対比表の説明があり、今後はコア・カリの活用ガイド（案）に掲載するものとして整理していくこととなった。

次に、パブリックコメントを反映させた最終版のモデル・コア・カリキュラム（案）が示され、修正箇所の説明があった。

モデル・コア・カリキュラムの完成版は冊子として刊行し、巻頭言を日本柔道整復師会、全国柔道整復師統合協議会、柔道整復研修試験財団と日本柔道整復接骨医学会に依頼することとなった。

内容について気になる点があれば1週間以内に申し出ることとし、議長は本議案について議場に諮ったところ、出席理事全員異議なくこれを承認可決した。

②第2号議案 令和8年度 専科教員認定講習会の件

奥田理事から、資料に基づき令和8年度専科教員認定講習会における東京会場の運営体制について説明があり、協力校の候補であった日本健康医療専門学校より、教員や教室・設備が対応できないことから辞退の申し出があったとの報告があった。

同校に対して、改めて関口副会長から協力要請を行うこととし、議長は本議案について議場に諮ったところ、出席理事全員異議なくこれを承認し、本議題は継続審議となった。

③第3号議案 会員協議会等開催の件

事務局長から、資料に基づき12月の理事会終了後に開催を計画している会員協議会の内容説明があった。当初案に学校協会元理事の逝去に伴う黙祷を追加することとし、議長は本議案について議場に諮ったところ、出席理事全員異議なくこれを承認可決した。

## 報告事項

### ①第1号報告 代表理事の職務執行報告と行事予定（11月、12月）の件

事務局長から、11月及び12月の各委員（部）会並びに学校協会等諸行事の予定が示され、議長が質問並びに意見を求めたところ、出席理事全員異議なく報告のとおり了承された。

### ②第2号報告 各委員会等

#### ア. 教育支援委員会教科書部会

齊藤理事から、

- ・株式会社南江堂から学校協会監修テキスト電子版2026の提案があり、以前から同社に依頼しているとおり柔道整復学・実技編については、テキストセット版ではなく「推薦図書」として提案されていること

- ・医歯薬出版株式会社からの提案が揃った段階で理事会に諮りたいとの報告があった。

#### イ. 教育支援委員会教員研修等部会

事務局長から、資料に基づき9月に開催された第67回教員研修会の収支決算額の報告があった。

次に伊藤理事から、資料に基づき来年予定している第68回教員研修会について、検討を進めているテーマ（案）と講師候補者の説明があり、各理事に対しても講師の推薦依頼がなされた。

#### ウ. 教育支援委員会専科教員認定講習部会

奥田理事から、議事録に基づき11月10日に開催された部会の概要として、研修受講の推薦枠を設けるなどの提案事項は、部会にて議論の上理事会に諮ることの報告があった。

#### エ. 教育支援委員会柔道整復師国家試験模擬試験部会

齊藤理事から、模擬試験が参加校で実施されており、受験料における参加状況（会員校33校、非会員校11校、受験者1,681名）の報告があった。

#### オ. 広報・調査委員会

大塚理事から、議事録に基づき10月28日に開催された委員会の概要報告があった。

カ. 柔道委員会

特になし。

キ. 組織運営委員会

田中理事から、今年度2回目の研修会テーマであるコア・カリ関連が12月開催の会員協議会の報告内容と重なることから、どのような違いを出すか現在調整中との報告があった。

続いて、議長が質問並びに意見を求めたところ、出席理事全員異議なく報告のとおり了承された。

### ③第3号報告 関連団体

ア. (公財) 柔道整復研修試験財団

関口副会長から、試験財団の施術管理者研修については、対面で実施することが決まり、会場が未定のところもあるが、専門学校や大学の協力を得て実施することとなったとの報告があった。

イ. (一社) 日本柔道整復接骨医学会

伊藤理事から、学術大会への参加の呼び掛けがあった。

ウ. (公社) 日本柔道整復師会

特になし。

エ. (一社) 柔道整復教育評価機構

関口副会長から、令和8年度評価事業の実施に向けて、準備を進めているとの報告があった。

オ. 厚生労働省

特になし。

カ. 文部科学省

関口副会長から、高度専門士をめぐる動きについての報告があった。

続いて、議長が質問並びに意見を求めたところ、出席理事全員異議なく報告のとおり了承された。

以上をもって議案の審議等を終了したので、16時07分、議長は閉会を宣し解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した会長、副会長及び監事は記名押印する。

令和7年11月21日

会 長 谷 口 和 彦 印

副 会 長 関 口 正 雄 印

監 事 米 田 忠 正 印

監 事 清 水 尚 道 印





## 令和 7 年度 第 2 回教育支援委員会 教科書部会 議事録



日 時	2025年10月 2 日（木） 14：00～16：00
会 場	ZOOMによるオンライン会議
出席者	12名

### 1、教科書第 7 版の修正作業について

#### (1) 第 2 回教科書部会開催までの作業について

- ①令和 7 年 6 月末日までに、教科書改訂についての修正案を提出いただいた。  
→南江堂からの意向により、7 版の改訂ではページ数及び索引の変更はないように  
願いたいとのことであったため、提出いただいた修正案を内容の分量によって、  
7 版改訂時の修正候補と 8 版改訂時の修正候補に分別した。
- ②作成した 7 版改訂時の修正候補について、修正の必要性の有無についてのご意見を  
いただき、8 月末までに提出いただいた。
- ③「②」にて、“要検討”とのご意見をいただいた部分をまとめ（別添資料 1）、第 2  
回教科書部会会議までにその内容について意見をまとめて頂くよう依頼した。  
また「②」の作業にて、“要検討”の意見がなかった修正案（別添資料 1 に掲載され  
ていないもの）については、第 7 版改訂での修正が決定となった。

#### (2) 第 2 回教科書部会での審議内容について

- ・別添資料 1 及び『柔道整復学 第 7 版』を用いて、部員の先生方より各修正案につ  
いての意見を伺いながら、第 7 版改訂時に最終的に修正する部分を決定した。  
修正内容の詳細は、別添資料 2 に示す。

以 上

# 令和7年度 第2回教育支援委員会 教員研修等部会 議事録

日 時 令和7年10月24日（木）14：00～16：00  
会 場 （公社）全国柔道整復学校協会、ZOOMによるオンライン併用会議  
出席者 9名

## 議 題

- (1) 第67回教員研修会について
- (2) 第68回教員研修会について
- (3) 大会テーマについて
- (4) 第69回教員研修会について
- (5) その他

定刻に至り、伊藤理事、水嶋理事の挨拶の後、議事へ進行した。

### 1. 会議サマリー（要点）

- ・ 第67回教員研修会：初の実行委員会制により、昨年度比で約130万円のコスト削減を実現。
- ・ 第68回教員研修会：開催日程・会場を確認。大会テーマ決定後にプログラム具体化を進める。
- ・ 大会テーマ：『Next Jusei～柔道整復を未来につなぐ～』に決定（原則3年間継続）。
- ・ 第69回教員研修会：学術大会とのジョイント開催案を検討（活性化・経費削減の観点）。
- ・ 次回部会：令和8年2月6日（金）14：00 開催。

### 2. 報告事項（第67回教員研修会）

#### (1) 開催実績（主要数値）

参加者：計255名（会員校190名、非会員校41名、来賓・講師・企業24名）

懇親会：155名参加

協賛・広告収益：126万2千円

#### (2) 運営体制

実行委員会制（委員長・副委員長＋九州地区養成校4校 各1名、計6名）

当日スタッフ：別途3名、学生4名が補助

#### (3) 決算のポイント

参加者減により収入は約100万円減少したが、会場設営費等の圧縮により支出を約230万円削減。結果として、昨年度比で約130万円のコスト削減を実現。

交通費：九州開催のため増加。通信費：申込システム経費の計上方法変更等により大幅減。

(4) 参加者アンケートの主な論点と対応方向

否定的意見の多くは『周知不足』に起因する可能性があり、研修内容の決定プロセス・コンセプトの説明を強化する。

懇親会の食事量：参加人数どおり(100%)の発注を継続し、会場側へ事前に十分共有する。

コンパニオン配置：ホテル側厚意によるものであったが誤解回避の観点から、今後  
も配置の是非を都度検討する。

### 3. 決定事項

(1) 第68回教員研修会（開催概要）

日程：2026年9月19日（土）～20日（日）

会場：森ノ宮医療大学（懇親会：学内施設予定）

研修内容：大会テーマ決定後に具体化を進める。

(2) 大会テーマ

以下のとおり決定した。

『Next Jusei～柔道整復を未来につなぐ～』

※ 大会テーマは原則3年間継続して使用する。

### 4. 検討事項（主に第68回以降）

(1) 第68回のプログラム設計の進め方

まず研修会全体の枠組み（設計）を作成し、その中に臨床実習等の個別テーマを配置する。

研究助成発表：主会場での口頭発表を継続する。

企業講演：継続する（講演数、複数会場設定の可否等は引き続き検討）。

(2) 第69回：日本柔道整復接骨医学会学術大会とのジョイント開催案

狙い：研修会・学会双方の活性化、ならびに経費削減。

形式案：金曜～土曜＝研修会、土曜～日曜＝学会（相互参加可能）。

日程面：12月第1週開催は国試対策と重なる可能性があり、学会日程を調整し研修  
会側に合わせる方向で検討する。

(3) 第70回：開催方針

沖縄開催の方針を確認。オンライン併用も検討する。

### 5. 次回までの対応（ToDo）

教員研修会全体の枠組み（案）を作成する。

部会員へ提示し、メールで意見を回収・集約のうえ、次回会議で検討する。

### 6. 次回開催

令和8年2月6日（金）14：00



## 令和7年度 第4回教育支援委員会 専科教員認定講習部会 議事録



日 時	令和7年10月7日（火）13：00～15：00
会 場	（公社）全国柔道整復学校協会事務局
出席者	5名

### 議 題

- (1) 修了試験問題の精査と合否判定について
- (2) 大阪会場のクレームについて
- (3) その他

### 配布資料

- (1) 東京会場と大阪会場の修了試験出題問題と修了試験採点結果に関する資料  
付：修了試験解答用紙整理表と報告書  
※上記の資料は会議終了とともに回収した。

### 会議内容

各試験会場において、立会人と試験総括者で、マークシート解答用紙を機械採点し、成績順・受講番号順の採点表、各問題の正答率・識別指数などの資料を作成していただいた。

- (1) 各会場の修了試験合否判定について

- 1) 採点結果について川口部会長からの報告

本日、午後1時00分から採点資料を精査し確認した。

各会場とも4者択一問題100問、1問につき1点で採点した。東京会場では問題に疑義は無く、採点は現状のままとした。最高93点、最低76点、平均85.3点で、出席率ならびに実習評価票においても、全員が規定を満たしていた。

大阪会場では正答が2つ選べる問題があり、対象となる受験者7名に1点ずつ加算された。その結果、最高98点、最低63点、平均82.4点で出席率も全員が規定を満たしていたが、実習評価票で2名がD判定であった。しかしながら、実習内容に改善の余地は見受けられても教員の素養を否定する評価内容では無かったため、審議の結果、全員が規定を満たしていると判断した。

- 2) 修了試験合否判定について

採点結果と審議内容を関口副会長から谷口会長に電話連絡でご連絡いただき、以下の件を報告し、判定結果の承諾を得た。



- ・東京会場：受験者19名（全員出席）、修了試験問題・出席状況・実習評価票で全員が基準を満たしていた。
- ・大阪会場：受験者26名（全員出席）、修了試験問題・実習評価票で審議を要したが、出席状況では全員が基準を満たしていた。

以上、東京会場を受講した19名、大阪会場を受講した26名の合格を確認し、10月7日現在で両会場の受講生45名中14名が皆勤賞に該当することを確認した。

## (2) 大阪会場のクレームについて

新任の講師が学生に自己紹介を促し、講義時間が短縮したことに不満を訴える受講者がいた。会議出席者で協議の結果、当該講師を推薦した学校で、授業アンケートを介したフィードバックを実施し、改善を促すこととした。しかしながら、改善が認められない場合は、今後は専科教員講習会への就講依頼は行わないこと、東京会場でも同様のケースが発生した場合は、対応を同じくすることを確認した。

## (3) その他

### 1) 受講終了後アンケートについて

広報・調査委員会より、専科教員講習会終了後にアンケートを実施したい旨の依頼があった。同様のアンケートを専科教員認定講習部会でも実施するため、アンケートの題名を明確に区別できるようにすることならびに内容の一部に修正を加えた案を提示し、次回の終了後に実施することを承諾した。

### 2) 閉講式での養成施設の営業活動について

一部の養成施設より、閉講式での就職案内や勧誘、資料配布を行いたい旨の依頼があった。協議の結果、今回はすべての養成施設に周知していないことから、不公平であることが否めないため、次回に向けて理事会で検討することを確認した。

### 3) 今後のスケジュールについて

- ・閉講式は東京会場が10月18日、大阪会場が10月25日を予定している。
- ・次年度の専科教員認定講習会は12月までの仮申請が必要なため、各会場の主幹校と協力校を決定し、11月10日（月）午後2時00分～、第5回専科教員認定講習部会を開催する。

以 上

# 令和7年度 第5回教育支援委員会 専科教員認定講習部会 議事録

日 時 令和7年11月10日（月）14：00～15：45  
会 場 （公社）全国柔道整復学校協会事務局  
出席者 6名

## 議 題

- (1) 次年度の主幹校・協力校について
- (2) 次年度のスケジュールについて
- (3) その他

## 配布資料

- (1) 専科教員研修会担当校一覧
- (2) 令和8年度専科教員認定講習会実施スケジュール（予定）
- (3) 令和7年度専科教員認定講習会実施計画（案）一式
- (4) 専科教員認定講習会の認知に関するアンケート結果
- (5) 各会場別講習会全体に伴うアンケート結果
- (6) 各会場別講義評価アンケート結果

## 会議内容

- (1) 次年度の主幹校・協力校について

東京会場 東京医療福祉専門学校（主幹校） 大阪会場 関西医療学園専門学校（主幹校）  
東京呉竹医療専門学校（協力校） 森ノ宮医療学園専門学校（協力校）  
日本健康医療専門学校（協力校） 平成医療学園専門学校（協力校）

以上、理事会で決定した配布資料（1）に基づき、令和8年度の体制を確認した。

- (2) 次年度のスケジュールについて

資料（2）を参考に受講試験実施日、ならびに修了試験実施日は認定実技審査が始まる前に終わることを確認し、各会場の引き継ぎ連絡を行った。

- ・アイスブレイクに対する受講生からの意見について（大阪会場）  
→ 講師が日程を誤解したために起きた事案であり、今後は改善される。
- ・講義評価アンケート結果のフィードバックの実施について（東京会場）  
→ 東京会場においても、郵送対応も含めフィードバックを実施する。

- ・小論文採点用に個室が必要であったことについて（東京会場）  
→ 小論文採点用に別室を確保することとする。
- ・講義日程について（東京会場）  
→ 新たに入る学校が担う科目は、前年度からずらすことを前提に主幹・協力校の間で調整する。

### (3) その他

#### 1) 事務局からの提案について

- ①次年度は事務協力謝金の源泉徴収額を速やかに納付するため、学校協会から事務協力謝金を支払うこととする。
- ②修了試験のコンプリートは、正・副部会長のチェックをもって終えることとする。  
また、修了試験策定を実施する部会では事務局は問題修正用のPCを用意することとする。
- ③修了試験の可否の判定は終了していたが、今回は事務局の都合により通知が再試日後となってしまったため、次年度はHPを利用して発表することとした。
- ④次年度以降の担当校一覧表を、今後は各校担当者ならびに校長へ事務局から通知することとした。
- ⑤マークシートの採点作業については、理事会での質疑に基づき、今後も主幹校で実施することとした。
- ⑥修了試験においては、試験立会人からの進言があり、予備試験問題を準備しないこととした。しかしながら、受講試験では以前に試験問題を立会人が開封する前に、主幹校が開封していた経緯があり、従来通りに予備試験問題を準備しておく必要がある旨を確認した。

#### 2) 広報・調査委員会作成「受講申し込み時の質問（Q & A）」について

- ①受講者増対策として、小論文の出題テーマを過去2年分公開してはどうか。
- ②出身校が廃校の場合の推薦証の提出については、教育実習先へ依頼する。また、卒業証書のコピーを活用してはどうかとの意見もあり、受けて貰いやすいようにするとの考えで対応してはどうか。（ただし、受講者の質の確保対策との意味合いもある。）
- ③就職を希望する修了者の情報を、教員を募集している会員校に紹介していたが、会員校が上手く活用できることを考えてはどうか。また、講習会の「ウリ」にもなるので、学校協会として取組んでも良いのではないか。

#### 3) 「専科教員講習会の認知に関するアンケート（暫定集計結果）」について

- ①受講者が「在学中に知りたかった。」との回答に対しては、卒業のタイミングで卒業生に渡すチラシ（会報の裏表紙）の原稿を会員校に送付し、学生に案内することとしてはどうかとの意見があった。

- ②受講者数の確保のため、受験しないで受講できる会員校推薦枠の復活を検討しても良いのではないかと意見があった。

4) 不測の事態への対応

「受講の手引き」に載っていない不測の事態（出講停止、忌引き等）に伴う講義の対応について、明確にしておく必要があり、今年度は部会で対応したが、台風や感染症の感染時の対応は専科教員認定講習会に関する細則で規定されており、また、必修科目を欠席する場合の対応を予め受講者に示すか否かの議論があったが、欠席を助長する可能性があるため、実施規程ならびに細則を担当校に配布することで対応することとした。オンラインの講義については、欠席対応としてだけでなく、オンライン講義を実施することで、学校の授業での対応を体験してもらうことに繋がるのではないかと意見があった。

5) 受講者アンケートの取り方（大阪会場）

2コマ連続で講義を行う場合のアンケートの取り方について、「書くことがないので、1回にして欲しい。」との受講者の声があるので検討してほしい。

6) 主幹校としての準備（東京会場）

主幹校において、いつまでにどんな書類を整えて提出すればよいのか教えてほしい。また、講師に依頼するに当たり、(コマ数ではない) 科目の整理についても示してほしい。

(4) 今後のスケジュールについて

12月10日（水）午後2時00分～、第6回専科教員認定講習部会を開催する。

以 上





## 令和 7 年度 第 3 回広報・調査委員会 議 事 録



日 時	令和 7 年10月28日（火）14：00～15：30
会 場	ZOOMによるオンライン併用会議
出席者	10名

### 議 題

- (1) 前年度及び前回委員会議事録の確認
- (2) 広報業務について
- (3) 調査業務について
- (4) その他

### 配布資料

1. 前年度および前回の議事録令和 6 年度第 3 回・令和 7 年度第 2 回 資料 1
2. 柔道整復学校協会会報誌掲載順リスト250421更新 資料 2
3. 会報誌裏表紙用専科教員認定講習会ポスター2026年 1 月発刊第77号（ピンク） 資料 3
4. 前号掲載内容教員紹介リーフレット2025年10月発刊第76号 資料 4
5. 会報目次案2026年 1 月発刊第77号 資料 5
6. 広報・調査委員会 R07用様式（1， 2） 資料 6
7. 令和 7 年度第 4 回委員会開催計画書 資料 7
8. 専科教員認定講習会の認知に関するアンケート集計結果（東京会場） 資料 8

### 会議内容

冒頭、大麻担当理事から挨拶及び各委員から各校の近況の報告を行った。

- (1) 前年度及び前回委員会議事録の確認

資料 1 を参照し、前年度同月実施回の議事録及び前回の議事録を確認した。

- (2) 広報業務について

会報誌第77号（令和 8 年 1 月発行予定）について

- ①資料 2 を参照し、「わが街の見どころ聞きどころ」担当校の関西医療学園専門学校への依頼を確認した。編集後記は、片橋委員が担当する。原稿の提出締切りは、12月15日とする。

②資料3を参照し、裏表紙用の専科教員認定講習会の募集案内を確認した。

掲載内容については、例年通りの記載内容となり、受講試験日と講習会場は未確定のため、これらの項目には「予定」と記載する。

③資料4を参照し、教員紹介リレーについて、会報誌第76号の掲載内容及び会報誌第77号の執筆者（東洋医療専門学校 姫 将司先生）を確認した。

④資料5を参照し、野田事務局長から、目次案について以下の報告があった。

- ・令和7年度専科教員認定講習会の開催報告について、東京会場、大阪会場の主幹校へ報告記事の執筆と修了式の集合写真の撮影を依頼する。
- ・第67回教員研修会の開催報告について、現在、教員研修等部会において報告記事が執筆されており、目次案のとおり掲載できる。

大麻理事から、会長年頭挨拶の掲載について確認があり、野田事務局長から依頼する旨の返答があった。

#### 学校協会ホームページについて

大麻理事から、学校協会ホームページの新着情報に以下を掲載することを確認した。

- ・第34回日本柔道整復接骨医学会学術大会の臨時会員向け大会参加費特別補助の案内及び学術大会ホームページのリンクを掲載する。
- ・第59回柔道大会、第68回教員研修会の日程を掲載する。

#### 専科教員認定講習会PR広告の鍼灸柔整新聞への出稿の中止について

大麻理事から、令和7年度の出稿の中止について理事会で承認された旨の報告があった。

#### (3) 調査業務について

令和7年度入学者の構成に関するアンケート調査について

大麻理事から、学校協会ホームページに掲載した旨の報告があった。

#### 卒業生のアンケート調査について

大麻理事から、令和8年度に実施することの確認があった。

調査は、令和8年3月から5年遡った卒業生を対象とし、郵送もしくはwebによるアンケートを実施する。

今後の委員会において、アンケート項目の追加など必要に応じて検討することが示された。

専科教員認定講習会の認知に関するアンケート調査について

資料8を参照し、東京会場のアンケート結果を確認した。

野田事務局長から、東京、大阪の各会場のアンケート結果、両会場を合わせたアンケート結果の3種類の報告を行う旨の説明があった。

大麻理事から、両会場のアンケート結果を基に、次回の委員会において認定講習会の認知度向上に関する事業について検討することが示された。

#### (4) その他

専科教員認定講習会Q&Aのホームページ掲載について

宮崎委員から、Q&A案を10項目程度に修正した旨の報告があった。

修正したQ&A案は、大麻理事へ送付して確認の後、事務局から専科教員認定講習会部会へ確認を依頼する。

令和8年度委員会の開催日程について

大麻理事から、次回の委員会において検討することが示され、今年度と同様に開催月の第3火曜日を予定している。

次回委員会について

令和7年度第3回広報・調査委員会は、令和8年1月20日（火）14時から16時にZOOMによるオンライン形式にて開催する。

議題は、会報誌第78号（令和8年4月発行予定）について、調査業務について、他を予定している。



## 「歴史ある町とわかりゆく街並み」

広報・調査委員会 委員  
 関西医療学園専門学校 徳田 明也

関西医療学園専門学校が位置する大阪市住吉区とは、大阪市の中でも南方のエリアをさします。

本校へのアクセスには、大阪の玄関口であるJR大阪駅（乗り換え：大阪メトロ梅田駅乗車）から大阪の市街地を南北に走る大動脈の大阪メトロ御堂筋線（地下鉄）で約25分の「あびこ駅」を下車して徒歩5分という交通の便利な場所にあります。

その中で、大阪市住吉区界隈の「見どころ聞きどころ」の魅力をご紹介します。  
 このエリアには3つの特徴があります。

1つ目が日本最古の観世音菩薩の寺院といわれる吾彦山大聖観音寺（通称あびこ観音）があります。毎年2月3日の「節分厄除大法会」には「聖観音」が開帳され、近畿圏内はもちろん遠方からも多数の人々が厄除開運・無病息災・諸願成就を祈り訪れるほどの寺院です。

本校でも国家試験合格祈願に訪れる学生がいます。

さらには、少し離れた場所ではありますが同住吉区内には全国的にも有名な住吉大社もあります。なんとも歴史深い地域といえます。



吾彦山大聖観音寺（通称あびこ観音）

**関西アルマ柔ローの歴史探訪&祈願！**

※2月には恵方巻きも食べたい！！



2つ目が長居公園です。

多種多様の施設が設置された複合型の都市公園（運動公園）であり、多くのスポーツ・文化施設が集まる拠点として多くの人々に親しまれています。

本校でも、BBQなどのイベントを開催したり、日常でも学生達の散歩コースにもなっています。

長居公園の歴史は、最初は1928年（昭和3年）に「臨南寺公園」（りんなんじこうえん）として計画され、最終的に1993年（平成5年）に長居第2陸上競技場が完成し、公園の整備が完了しました。（2025年10月現在）

#### [スポーツ施設]

- 長居陸上競技場（ヤンマースタジアム長居）：国際大会も開催可能なメインスタジアム
- 長居第2陸上競技場（ヤンマーフィールド長居）：トレーニングや練習用施設
- 長居球技場（ヨドコウ桜スタジアム）：プロサッカーチームの球技場
- 長居庭球場：ナイター対応のテニスコートを8面完備
- 長居プール：25メートルの屋内プールと夏季限定の屋外プールを併設
- 長居相撲場：相撲大会や練習に使用される施設

※その他にも、公園敷地内を利用して様々なイベントやフェスが開催されたり、球技場を活用して多くのアーティスト（ミュージシャン）による屋外ライブも行われます。

#### [みどり施設]

- 大阪市立長居植物園：四季折々の植物が楽しめる庭園
- 郷土の森・おもいで森：自然を身近に感じられる森林エリア
- 花と緑と自然の情報センター：植物や自然に関する学びの拠点
- こどもの広場：長居公園内に数多くの子供たちが遊べる広場

#### [文化・その他施設]

- 大阪市立自然史博物館：自然科学に関する展示が充実
- 大阪市立長居ユースホステル：宿泊が可能な施設
- 大阪市長居障害者スポーツセンター：障害者向けのスポーツ施設



長居公園にて！

### 関西アルマ柔ロー＆関西アルマ柔子の散歩旅！

3つ目があびこ中央商店街（愛称：あびんこ商店街）です。

下町の商店街ですが、「西に歩けば吾彦山大聖観音寺（通称あびこ観音）、東に歩けば本校（関西医療学園専門学校）に到着する」という、どこか懐かしい商店街です。

昔ながらの商店街ですが学生生活を充実させるお店も多数あり、食事をしたり、休憩に  
お茶（コーヒー・ラテ・ケーキセットetc）を飲んだり、学生達には欠かせない商店街です。



最近では、マンションの建設が一気に進められていることもあり、同時に商業施設の建設（開発）も進められています。

これからあびんこ商店街はどのように変わって行くのかは楽しみなところです。

あびこ中央商店街（あびんこ商店街）

### 関西アルマ柔子の休憩＆ショッピング！

最後に、「歴史ある町とわかりゆく街並み」のテーマにもあるように、都心部である大阪駅から少し離れた場所にもその地域やその場所での歴史と発展があります。

当然、そこには本校（関西医療学園専門学校）としての歴史と発展もあります。

大阪の繁華街から少し離れた場所に目を向けて散策するのも大阪の1つの楽しみ方です。  
大阪に来られた際には、少し都心部から足を伸ばして大阪を楽しむのもありますよ。

★第13回★

## 教員紹介リレー



東洋医療専門学校  
姫 将司

(兵庫県尼崎市出身)



今回は米田柔整専門学校の山本啓司先生よりバトンを受けることとなりました。「バトン、落っこさないでくださいね。」と温かい言葉で繋いでいただき、緊張による手汗で滑りそうです。足元にも及ばない私としては身に余る思いですが、ご紹介いただけたことに感謝して、精一杯つとめさせていただきます。

### ～ 姓について ～

この記事で、初めて私を知った方は「珍しい名字やな～」と思われたでしょう。まずはこの「姓」についての話から始めさせてください。

私の姓は、先祖代々、能登半島の先端にある「輪島」という地で受け継がれてきました。父の代まで暮らしていた打越町という山合いの小さな集落の近くには、河原田川という川が流れており、そこには大きな淵が今でもあります。その淵はかつて、お姫様が身を投げたという言い伝えがあり、「姫ヶ淵」と呼ばれているそうです。幼い頃、祖父から何度も聞かされた話によると、私の姓はこの姫ヶ淵の「姫」に由来しているとのことでした。



姫ヶ淵



輪島に他にも残るルーツ

珍しい名字なので小さい頃は苦労することもありましたが、患者さんや先生方にすぐ覚えていただけたら、会話のきっかけになったりと、良いことも多くありました。そういえば、ダウンタウン（同じ尼崎出身）のある番組から実家に取材の連絡がきたこともあります。その時は母が断ってしまい、全国デビューは叶いませんでした。

国内に家系以外にいないのか？と気になって調べたことがあります。すると、全国に同じ姓が「約30人」いるとの結果でした。ぜひ一度、家系以外の方とお会いしてみたいものです。

2024年元日、輪島は能登半島地震と豪雨で大きな被害を受けました。それでも辛抱強く、復興への道を一步ずつ進んでいます。先祖代々が眠り、父の代まで暮らしていた土地でもあり、私にとっても特別な場所です。どうか皆様にもこの地を心に留めていただければ幸いです。

### ～ “よくわからない” から始まった私の進路 ～

小学生の頃、友達とふざけて遊んでいて怪我をしました。その友達の家が接骨院で連れていかれたのが柔道整復との最初の出会でした。たいした怪我でもなかったようで、何か“よくわからないもの”を貼られて帰り、それで治ったのを覚えています。

その後はそれっきりでしたが、高校生になり再び接骨院へ通うことになります。高校までずっと捕手をしていたので、よく膝が痛くて整形外科に通っていましたが、なかなか良くなり、クラスメイトが紹介してくれた接骨院に行くことになりました。

久しぶりの接骨院は正直なところ“よくわからない”ことだらけでした。院内にはレントゲンもなければそのような設備も見当たりません。白衣は着ているけど医師ではない。「レントゲンも撮らんとわかるんか？」「この先生は何者？」と、今となっては大変失礼なことを考えつつ施術を受けたあと、そこで初めて、「柔道整復師」の存在を知ることになります。

ちょうどその頃、進路を考え始める時期になりました。高校は電気科で、電気工事士の資格も取得していたため、関連企業へ就職するのだろうと思っていました。しかし、いくら求人票を見ても、働きたいと思うところが見つからず、どうせ働くなら少しでも興味を持てる道に進もうと考えるようになりました。振り返ってみると、子どもの頃から病院にかかる機会が多く、医療の現場や人を支える仕事にどこか惹かれていました。そのため、心の奥で「人の役に立てる仕事がしたい」という思いがあったのだと思います。そうした気持ちと接骨院への通院経験がつながり、最終的に柔道整復師の道を選びました。

医学に関する知識がゼロのままスタートした学生生活は、毎日が知的好奇心を満たされるものでした。そして、柔道整復師の“よくわからない”仕事が骨折や脱臼、捻挫などを診ること、小学生の頃に接骨院で貼られた、“よくわからないもの”が「泥湿布」であったことを初めて知ることとなるのです。

### ～ 柔道整復師としての転機 ～

柔道整復師免許取得後は整形外科クリニックで主にリハビリを担当して、院長先生や患者さんから多くを学ぶ日々でした。しかし柔道整復師が少ない環境で、「本当に柔道整復師として成長できているのか」という焦りにも似た思いが湧いてきました。ちょうどその頃



に「専門学校の付属接骨院で働かないか」というお話をいただきました。それが「京都仏眼医療専門学校」でした。

そこで出会った先生方は外傷の現場を第一線で経験してこられた先生方ばかりでした。柔道整復師が養成施設で学ぶような外傷患者を“実際に診る”ことなど、当時の私にはもはや都市伝説のように感じていました。正真正銘の柔道整復師と呼ぶべき先生方を目の当たりにして、「井の中の蛙」だった事を痛感し、言いようのない後悔がありました。そんな経験豊富な先生方の前で患者さんに対応する日々は力不足を思い知らされるもので重圧も大きく…いや、日によってはその重圧に潰されていたかもしれません。しかし、その環境の中で私の考えや姿勢は大きく変わっていったように思います。教育に携わりながらもなお研鑽が続けられる先生方の姿勢からは、柔道整復師としての“誇り”や「正真正銘の柔道整復師を育てたい」という強い思いが伝わってきていました。圧倒的な差に打ちのめされながらも、私にできることは自らの甘さを自覚し、学び続けることだけでした。やはり柔道整復師は誇れる職業だ、と再認識できたことは私にとって今でも大きな力になっています。

ある日、私を「仏眼」に誘ってくださった先生から、専科教員になる道を勧めていただきました。全国には先生方のような教員が大勢いる——その中で働きたいという思いが芽生え、経験不足に悩む時期もありましたが最終的に専科教員として挑戦することを決めました。専科教員となった今でも、当時お世話になった先生方には変わらず親しくしていただき、深く感謝しています。

柔道整復の世界に飛び込んでから多くの人と出会ってきました。個性豊かで愉快的な同級生、惜しみなく経験や技術を伝えてくださった先生方、新しい道や挑戦へと導いてくださった先生方、現在共に勤務する先生方、その出会いの一つひとつが、私にとって大切な財産になっています。

### ～ ギラン・バレー症候群の経験 ～

前述の能登半島豪雨災害が起きたその日、奇しくも緊急入院することになりました。当日の朝、下肢の脱力を感じました。まだ歩くことや階段昇降はできていたので、教員研修会（東京）に参加するべく「このまま東京へ向かおう」と準備を進めていました。しかし、準備を進めるうちに片脚立ちができなくなり、その時にふと約1週間前に微熱と下痢があったことを思い出します。「まさかギラン・バレー症候群では？」という思いが頭をよぎり、近くの脳神経外科を受診すると、やはりその疑いがあるとして、対応可能な病院を紹介されました。受診から他院紹介に至るまでのわずか2時間で、症状は100mも歩けないほどに進行していました。新大阪から東京までは新幹線で約2時間30分です。もしも無理して乗っていたら、東京駅到着後、降りられなかったでしょう（笑）。入院後は速やかに診断と治療を受けることができ、職場復帰できたのは発症から3か月が経過した頃でした。入院中は長期の休職も覚悟していましたが、柔軟に復帰できる環境を整えてくださった学科長や同

僚の先生方には、今でも大変感謝しています。

一般臨床医学の教科書によると「自己免疫反応による脱髓が原因となり、急性の脱力や筋力低下で発症する」とされ、痛みについての記載はありません。しかし、私が最も苦しんだのは発症から約2週間続いた“激痛”で、首を少し前屈しただけで背部から殿部、さらに下肢後面へと電撃痛が走りました。発症から1年以上が経過した現在、まだ完全回復していませんが日常生活はほぼ元通りになりました。徐々に回復するため「予後良好」とされますが、この4文字が持つ背景は様々だと実感します。多くの文献では「3～6か月以内の回復」が一般的とされていますが、私のように「軸索障害型」の場合は回復が遅れることが知られています。その主な原因として、カンピロバクター感染が多くを占めるとされています。そのため好きだった鳥刺しも、今では“ゲテモノ”（九州の先生方、申し訳ありません）と感じてしまい、もう食べられなくなりました。みなさんも、しっかり火を通して食べましょう。

実際に患者になると多くの事に気付きます。突然歩けなくなると強いショックを受けると思いますが、私はショックを感じず、素直に受け入れていました。入院当日から進行する麻痺をスマホで記録、病態やリハビリ方法を考えて過ごすなど、どこか冷静でした。この時の私はおそらく、医療者側の視点で自分自身の病状をみていたことで、他人事に感じていました。それが防衛機制になって、ショックを感じずに受容できたのだと考えています。もしかしたら、医療に関わる人々に特徴的なプロセスなのかもしれません。

全国の専科教員の中でも、ギラン・バレー症候群を経験した人はおそらく私ぐらいではないでしょうか（笑）。振り返ると非常に貴重な時間を過ごせています。本校の学生も興味を持って話を聞いてくれました。もし、どなたかの役に立つのであれば、これからも一人でも多くの人に伝えていきたいと思っています。ご興味がありましたら、どうぞ気兼ねなくお声がけください。

## ～ プライベートについて ～

みなさん、旅は好きですか？最後に、私が大好きな旅の話を少しさせてください。

私は初めて中国へ一人旅をして以来、その魅力に惹かれ、時間を見つけては海外を“ぶらぶら”しています。訪れた国々にはそれぞれ独自の歴史や文化があり、その中でも特に印象に残っている国があります。それが「イスラエル」です。

イスラエルには、ユダヤ教・キリスト教・イスラム教それぞれの聖地が集まるエルサレムという街があります。新市街には主にユダヤ教徒が暮らしていますが、旧市街に一歩足を踏み入れると、異なる宗教の人々が絶妙なバランスで共存していることを肌で感じる事ができ、聖地では何千年と続く信仰が作り出す独特の空気を感じることができました。



“嘆きの壁”

「パレスチナ問題」に関心があった私は、二度目はパレスチナ自治区の「ヘブロン」という街を訪れました。多くのパレスチナ人が暮らす場所ですが、イスラエルの占領下にあり、分離壁やチェックポイントの存在によって移動が制限され、経済的にも厳しい状況です。それでも、街中で出会う人々は旅行者の私を妬むことなく、次々と話しかけてくれました。子どもたちが無邪気な笑顔で「一緒にサッカーしよう!」と誘ってくれたり、バスの中で出会った女性は、私が日本人だと知ると「いい国だね」と言って、持っていたチョコレートをたくさん分けてくれました。そんな温かい人々が暮らす街も、銃を持ったイスラエル軍の兵士による監視の目が常に光っていました。

エルサレムへ戻るためにタクシーに乗った時のことです。ドライバーが突然「ここで降りてくれ」と言いました。彼は申し訳なさそうに、「悪いけどここまでしか行けない」と言い、戸惑って外を見ると、そこはチェックポイントの前でした。旅行者の私はそこを通過して自由にエルサレムや他の街へ行くことができますが、彼自身はパレスチナ人なので通ることができないのです。この時の寂しいような、言葉にならない感情は今でも覚えています。

現在もおそらく「パレスチナ問題」は世界で最も解決が困難な問題の一つだと思います。もちろん、短期旅行者にはその複雑さは一部しか理解できません。

自分の足で歩き、目で見て、そこで暮らす人々と接することで自分だけの経験を積み重ねられることが、旅の一番の醍醐味だと思います。そして、さまざまな出会いや人の優しさに触れられる“旅”はやっぱりやめられないですね!



パレスチナの子供たちと



THIS IS PALESTINEの文字が



イスラエル軍の兵士

## ～ 最後に ～

これまで、バトンは落とさずに走っていたでしょうか。今までバトンを繋いで来られた先生方に比べると振り返る人生も多くありませんので、どこまで書けるか心配でした。

最後までお読みいただき感謝申し上げます。ありがとうございました。

～ 次回は… ～

次回は、森ノ宮医療学園専門学校の 岸上 知可 先生にバトンをお繋ぎします。

向上心が高く、日頃から意欲的に取り組まれているのが印象的で、次はどなたにお願いしようかと考えていたとき、最初に思い浮かんだのが岸上先生でした。ぜひ、岸上先生らしいお話を聞かせただけると嬉しいです。

よろしくお願いいたします。

# 公益社団法人 全国柔道整復学校協会

## 正 会 員 校 要 覧

令和7年4月1日現在

都道府県		学 校 名	所 在 地	TEL FAX
北海道 1校	1	公益社団法人 北海道柔道整復師会 附属北海道柔道整復専門学校	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西18-1-15	011-642-0731 011-642-8455
岩手県 1校	2	学校法人 龍澤学園 MCL盛岡医療大学校	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通3-3-4	019-652-1189 019-652-1198
宮城県 2校	3	学校法人 東北柔専 仙台接骨医療専門学校	〒983-0005 宮城県仙台市宮城野区福室3-4-16	022-258-6222 022-259-7511
	4	学校法人 赤門宏志学院 仙台赤門医療専門学校	〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻青葉33-1	022-222-8349 022-222-3797
福島県 1校	5	学校法人 平成医療学園 福島医療専門学校	〒963-8026 福島県郡山市並木3-2-23	024-933-0808 024-933-7887
群馬県 1校	6	学校法人 国際中央学園 中央スポーツ医療専門学校	〒371-0843 群馬県前橋市新前橋町21-16	027-253-1205 027-253-1230
埼玉県 2校	7	学校法人 大川学園 大川学園医療福祉専門学校	〒357-0016 埼玉県飯能市下加治345	042-974-8880 042-974-8884
	8	学校法人 呉竹学園 大宮呉竹医療専門学校	〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-185-1	048-658-0001 048-658-0005
東京都 11校	9	学校法人 花田学園 日本柔道整復専門学校	〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町20-1	03-3461-4740 03-3461-4733
	10	学校法人 呉竹学園 東京呉竹医療専門学校	〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町16-12	03-3341-4043 03-3358-3976
	11	学校法人 敬心学園 日本医専	〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-18-18	03-3208-7741 03-3208-6488
	12	学校法人 エイジェック学園 スポーツ健康医療専門学校	〒130-0026 東京都墨田区両国4-27-4	03-3846-5151 03-3846-5152
	13	学校法人 滋慶学園 東京メディカル・スポーツ専門学校	〒134-0088 東京都江戸川区西葛西3-1-16	03-5605-2930 03-5605-2932
	14	学校法人 片柳学園 日本工学院八王子専門学校	〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404-1	042-637-3111 042-637-3112
	15	学校法人 創志学園 日本健康医療専門学校	〒111-0053 東京都台東区浅草橋3-31-5	03-5835-1456 03-5835-1457
	16	学校法人 都築科学学園 関東柔道整復専門学校	〒190-0012 東京都立川市曙町1-13-13	042-529-6660 042-529-6665
	17	学校法人 小倉学園 新宿医療専門学校	〒160-0017 東京都新宿区左門町5番地	03-3352-6811 03-3352-6816
	18	学校法人 西田学園 アルファ医療福祉専門学校	〒194-0022 東京都町田市森野1-7-8	042-729-1026 042-721-8411
	19	学校法人 常陽学園 東京医療福祉専門学校	〒104-0032 東京都中央区八丁堀1-11-11	03-3551-5751 03-3551-5752
神奈川県 1校	20	学校法人 呉竹学園 横浜呉竹医療専門学校	〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜2-7-24	045-471-3731 045-471-3732
静岡県 1校	21	学校法人 森島学園 専門学校浜松医療学院	〒434-0038 静岡県浜松市浜名区貴布祢232-3	053-585-1333 053-585-1661



都道府県		学 校 名	所 在 地	TEL FAX
愛知県 3校	22	学校法人 米田学園 米田柔整専門学校	〒451-0053 愛知県名古屋市区枇杷島2-3-13	052-562-1210 052-563-6495
	23	学校法人 滋慶コミュニケーションアート 名古屋医健スポーツ専門学校	〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄3-20-3	052-238-3463 052-238-3464
	24	学校法人 葛谷学園 中和医療専門学校	〒492-8251 愛知県稲沢市東緑町1-1-81	0587-23-5235 0587-23-5237
京都府 1校	25	学校法人 滋慶コミュニケーションアート 京都医健専門学校	〒604-8203 京都府京都市中京区衣棚町51-2	075-257-6507 075-257-6488
大阪府 7校	26	学校法人 関西医療学園 関西医療学園専門学校	〒558-0011 大阪府大阪市住吉区荻田6-18-13	06-6699-2222 06-6609-2118
	27	学校法人 明治東洋医学院 明治東洋医学院専門学校	〒564-0034 大阪府吹田市西御旅町7-53	06-6381-3811 06-6381-3800
	28	学校法人 平成医療学園 平成医療学園専門学校	〒531-0071 大阪府大阪市北区中津6-10-15	06-6454-1500 06-6454-1550
	29	学校法人 森ノ宮医療学園 森ノ宮医療学園専門学校	〒537-0022 大阪府大阪市東成区中本4-1-8	06-6976-6889 06-6973-3133
	30	学校法人 履正社 履正社国際医療スポーツ専門学校	〒532-0023 大阪府大阪市淀川区十三東1-21-23	06-6305-6592 06-6305-1692
	31	学校法人 近畿医療学園 近畿医療専門学校	〒530-0047 大阪府大阪市北区西天満5-3-10	06-6360-3003 06-6360-3022
	32	学校法人 大阪滋慶学園 東洋医療専門学校	〒532-0004 大阪府大阪市淀川区西宮原1-5-35	06-6398-2255 06-6398-2225
兵庫県 1校	33	学校法人 神戸創志学園 関西健康科学専門学校	〒659-0065 兵庫県芦屋市公光町1-18	0797-22-7221 0797-22-9333
岡山県 1校	34	学校法人 朝日医療学園 朝日医療大学校	〒700-0026 岡山県岡山市北区奉還町2-7-1	086-255-2000 086-255-2010
広島県 1校	35	学校法人 I G L 学園 I G L 医療福祉専門学校	〒731-3164 広島県広島市安佐南区伴東1-12-18	082-849-5001 082-849-5115
香川県 1校	36	学校法人 大麻学園 四国医療専門学校	〒769-0205 香川県綾歌郡宇多津町浜五番丁62-1	0877-41-2320 0877-41-2322
愛媛県 1校	37	学校法人 河原学園 河原医療福祉専門学校	〒790-0014 愛媛県松山市柳井町3-3-13	089-946-3388 089-946-4555
福岡県 4校	38	学校法人 福岡医療学院 福岡医療専門学校	〒814-0005 福岡県福岡市早良区祖原3-1	092-833-6120 092-833-6516
	39	学校法人 滋慶学園 福岡医健・スポーツ専門学校	〒812-0032 福岡県福岡市博多区石城町7-30	092-262-2119 092-262-8669
	40	学校法人 都築学園 福岡天神医療リハビリ専門学校	〒810-0004 福岡県福岡市中央区渡辺通4-3-7	092-738-7823 092-738-8584
	41	学校法人 国際志学園 九州医療スポーツ専門学校	〒802-0077 福岡県北九州市小倉北区馬借1丁目1-2	093-531-5331 093-531-5332
佐賀県 1校	42	学校法人 九州アカデミー学園 九州医療専門学校	〒841-0027 佐賀県鳥栖市松原町1709-2	0942-81-3131 0942-81-3154
沖縄県 1校	43	学校法人 松正学園 専門学校沖縄総合医療学院	〒901-2132 沖縄県浦添市伊祖4丁目1番-19号	098-875-8377 098-875-8366
合 計		43校		

# 公益社団法人 全国柔道整復学校協会

## 学校理事長・校長・正会員名簿

令和7年12月20日現在

都道府県		学 校 名	理事長	校 長	正会員
北海道 1校	1	公益社団法人 北海道柔道整復師会 附属北海道柔道整復専門学校	高山 訓正	當瀬 規嗣	高山 訓正
岩手県 1校	2	学校法人 龍澤学園 MCL盛岡医療大学校	龍澤 尚孝	鈴木 一幸	松岡 靖
宮城県 2校	3	学校法人 東北柔専 仙台接骨医療専門学校	島谷 剛美	島谷 夕美	佐藤 真希
	4	学校法人 赤門宏志学院 仙台赤門医療専門学校	坂本 正憲	坂本 浩樹	坂本 正憲
福島県 1校	5	学校法人 平成医療学園 福島医療専門学校	岸野 雅方	飯島 正治	岸野 雅方
群馬県 1校	6	学校法人 国際中央学園 中央スポーツ医療専門学校	中島 利郎	田村 浩之	中島 利郎
埼玉県 2校	7	学校法人 大川学園 大川学園医療福祉専門学校	岩崎 和行	平澤 淳	平澤 淳
	8	学校法人 呉竹学園 大宮呉竹医療専門学校	坂本 歩	齊藤 秀樹	齊藤 秀樹
東京都 11校	9	学校法人 花田学園 日本柔道整復専門学校	櫻井 康司	櫻井 康司	櫻井 康司
	10	学校法人 呉竹学園 東京呉竹医療専門学校	坂本 歩	村上 哲二	村上 哲二
	11	学校法人 敬心学園 日本医専	小林 光俊	岸本 光正	奥田 久幸
	12	学校法人 エイジェック学園 スポーツ健康医療専門学校	石原 征二	桑原 淳	桑原 淳
	13	学校法人 滋慶学園 東京メディカル・スポーツ専門学校	浮舟 邦彦	関口 正雄	関口 正雄
	14	学校法人 片柳学園 日本工学院八王子専門学校	千葉 茂	中村 英詞	千葉 茂
	15	学校法人 創志学園 日本健康医療専門学校	増田 哲也	清宮 克幸	大橋 博
	16	学校法人 都築科学学園 関東柔道整復専門学校	都築 慶子	福井 次矢	福井 次矢
	17	学校法人 小倉学園 新宿医療専門学校	小倉 基宏	小倉 芳裕	永野 修
	18	学校法人 西田学園 アルファ医療福祉専門学校	西田 忠康	瀧 将仁	瀧 将仁
	19	学校法人 常陽学園 東京医療福祉専門学校	濱田 良機	殿村 康一	殿村 康一
神奈川県 1校	20	学校法人 呉竹学園 横浜呉竹医療専門学校	坂本 歩	坂本 歩	田中 秀和
静岡県 1校	21	学校法人 森島学園 専門学校浜松医療学院	森島 康之	鈴木 康仁	鈴木 康仁

都道府県		学 校 名	理事長	校 長	正会員
愛知県 3校	22	学校法人 米田学園 米田柔整専門学校	米田 忠正	山本 啓司	米田 忠正
	23	学校法人 滋慶コミュニケーションアート 名古屋医健スポーツ専門学校	竹本 雅信	木村 一郎	竹本 雅信
	24	学校法人 葛谷学園 中和医療専門学校	楠本 高紀	清水 洋二	清水 洋二
京都府 1校	25	学校法人 滋慶コミュニケーションアート 京都医健専門学校	竹本 雅信	藤田 裕之	竹本 雅信
大阪府 7校	26	学校法人 関西医療学園 関西医療学園専門学校	武田 大輔	武田 大輔	廣岡 聡
	27	学校法人 明治東洋医学院 明治東洋医学院専門学校	谷口 和彦	三澤 圭吾	谷口 和彦
	28	学校法人 平成医療学園 平成医療学園専門学校	岸野 雅方	北小路博司	北野 吉廣
	29	学校法人 森ノ宮医療学園 森ノ宮医療学園専門学校	清水 尚道	清水 尚道	清水 尚道
	30	学校法人 履正社 履正社国際医療スポーツ専門学校	金谷 等	池尾 忠思	田中 雅博
	31	学校法人 近畿医療学園 近畿医療専門学校	小林 英健	小林 栄美	小林 英健
	32	学校法人 大阪滋慶学園 東洋医療専門学校	浮舟 邦彦	太田 宗夫	古谷 圭司
兵庫県 1校	33	学校法人 神戸創志学園 関西健康科学専門学校	岡田 典世	住田 行志	岡田 典世
岡山県 1校	34	学校法人 朝日医療学園 朝日医療大学校	津島 伸章	草地 清志	津島 伸章
広島県 1校	35	学校法人 I G L 学園 I G L 医療福祉専門学校	永見 憲吾	川端 一弘	川端 一弘
香川県 1校	36	学校法人 大麻学園 四国医療専門学校	大麻 正晴	青木みゆき	大麻 正晴
愛媛県 1校	37	学校法人 河原学園 河原医療福祉専門学校	河原 成紀	石崎 学	水野 晋悟
福岡県 4校	38	学校法人 福岡医療学院 福岡医療専門学校	田中 七郎	田中 七郎	藤瀬 正
	39	学校法人 滋慶学園 福岡医健・スポーツ専門学校	浮舟 邦彦	古谷野 潔	古谷野 潔
	40	学校法人 都築学園 福岡天神医療リハビリ専門学校	都築 仁子	大川 照明	大川 照明
	41	学校法人 国際志学園 九州医療スポーツ専門学校	水嶋 章陽	赤木 恭平	水嶋 章陽
佐賀県 1校	42	学校法人 九州アカデミー学園 九州医療専門学校	門司 誠一	井上 勇介	門司 誠一
沖縄県 1校	43	学校法人 松正学園 専門学校沖縄統合医療学院	松浦 幸男	鈴木 信司	鈴木 信司

## 賛助会員名簿

賛助会員団体名	代表者氏名	住 所	電話番号
株式会社南江堂	代表取締役社長 小 立 健 太	〒113-8410 文京区本郷3-42-6	03-3811-7140
医歯薬出版株式会社	代表取締役社長 白 石 泰 夫	〒113-8612 文京区本駒込1-7-10	03-5395-7616

## 公益社団法人 全国柔道整復学校協会 教育支援委員会教科書部会 名簿

令和7年4月1日より令和9年3月31日まで

令和7年4月1日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	大宮呉竹医療専門学校	校長	齊藤 秀樹
部会長	明治東洋医学院専門学校	校長	三澤 圭吾
副部会長	大宮呉竹医療専門学校	教員	村澤 幸弘
部員	仙台接骨医療専門学校	教頭	佐藤 真希
部員	福島医療専門学校	教務部長	齊藤 慎吾
部員	中央スポーツ医療専門学校	専任教員	北澤 和貴
部員	スポーツ健康医療専門学校	副学科長	淵ノ上真太郎
部員	専門学校浜松医療学院	教務部長	錦織 輝礼
部員	米田柔整専門学校	教員	生駒 慎二
部員	朝日医療大学校	学科長	横見瀬ゆかり
部員	河原医療福祉専門学校	学科長代理	三木宏太郎
部員	福岡医健・スポーツ専門学校	専任教員	水元 宏哉
部員	九州医療専門学校	学科長	徳安 琢磨

## 公益社団法人 全国柔道整復学校協会 教育支援委員会教員研修等部会 名簿

令和7年4月1日より令和9年3月31日まで

令和7年4月1日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	日本体育大学保健医療学部	教授	伊藤 譲
(副)担当理事	学校法人 国際志学園	理事長	水嶋 章陽
部会長	森ノ宮医療学園専門学校	教員	葉山 直史
副部会長	九州医療スポーツ専門学校	教務部長	桑野 幸仁
部員	日本工学院八王子専門学校	科長	有山 敦士
部員	関東柔道整復専門学校	学科長代理	加藤 稔啓
部員	東洋医療専門学校	副学科長	山田 靖典
部員	四国医療専門学校	専任教員	四宮 英雄
部員	専門学校沖縄統合医療学院	教員	登崎 正行

## 公益社団法人 全国柔道整復学校協会 教育支援委員会専科教員認定講習部会 名簿

令和7年4月1日より令和9年3月31日まで

令和7年4月1日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	日本医専	相談役	奥田 久幸
(副)担当理事	日本体育大学保健医療学部	教授	伊藤 譲
部会長	大宮呉竹医療専門学校	臨床教育研究センター マネージャー	川口 央修
副部会長	平成医療学園専門学校	校長	北野 吉廣
部員	日本柔道整復専門学校	教務部長	山口 竜彦
部員	日本健康医療専門学校	専任教員	新才 博紀
部員	新宿医療専門学校	専任教員	春日 貴之
部員	明治東洋医学院専門学校	専任教員	神内 伸晃
部員	近畿医療専門学校	教務部長	上野 雅洋



# 公益社団法人 全国柔道整復学校協会

## 教育支援委員会柔道整復師国家試験模擬試験部会 名簿

令和7年4月1日より令和9年3月31日まで

令和7年4月1日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	大宮呉竹医療専門学校	校長	齊藤 秀樹
部会長	東京呉竹医療専門学校	科長	杉山 直人
副部会長	明治東洋医学院専門学校	教務部次長	秋津 知宏

### 問題作成小委員会（7名）

部員	附属北海道柔道整復専門学校	教務主任	野崎 享
部員	東京メディカル・スポーツ専門学校	学科長	小関 孝男
部員	横浜呉竹医療専門学校	科長	田中 秀和
部員	中和医療専門学校	学科長	太田 康晴
部員	関西医療学園専門学校	学生部長補佐	林 竜也
部員	履正社国際医療スポーツ専門学校	専任教員	西 正人
部員	四国医療専門学校	学科主任	鹿庭 祥平

### データ処理小委員会（4名）

部員	大宮呉竹医療専門学校	臨床教育センターマネージャー	川口 央修
部員	東京呉竹医療専門学校	柔道整復科 専任教員	池亀 耕太
部員	明治東洋医学院専門学校	実技主任	神内 伸晃
部員	明治東洋医学院専門学校	学生科長	奥田 香苗

## 公益社団法人 全国柔道整復学校協会 広報・調査委員会 委員名簿

令和7年4月1日より令和9年3月31日まで

令和7年4月1日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	四国医療専門学校	理事長	大麻 正晴
委員長	東京呉竹医療専門学校	事務長補佐	廣木 智
副委員長	四国医療専門学校	学科主任	鹿庭 祥平
委員	仙台接骨医療専門学校	教頭	佐藤 真希
委員	仙台赤門医療専門学校	専任教員	亀井 啓
委員	日本医専	専任教員	片橋 るみ
委員	関西医療学園専門学校	次長	徳田 明也
委員	森ノ宮医療学園専門学校	学科長	外林 大輔
委員	関西健康科学専門学校	教員	宮崎 香織

## 公益社団法人 全国柔道整復学校協会 柔道委員会 委員名簿

令和7年4月1日より令和9年3月31日まで

令和7年4月1日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	関西医療学園専門学校	副校長	廣岡 聡
委員長	東京呉竹医療専門学校	科長補佐	早川 幸秀
副委員長	京都医健専門学校	副校長	湊谷 知幹
委員	日本柔道整復専門学校	教員	赤羽 泰彦
委員	日本医専	教員	長坂 愛
委員	名古屋医健スポーツ専門学校	副校長	米女 博司
委員	I G L 医療福祉専門学校	教員	埜 義徳

# 公益社団法人 全国柔道整復学校協会

## 組織運営委員会 委員名簿

令和7年4月1日より令和9年3月31日まで

令和7年4月1日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	履正社国際医療スポーツ専門学校	副校長	田中 雅博
委員長	履正社国際医療スポーツ専門学校	学科長	辻井 宏昭
副委員長	東京医療福祉専門学校	学科長	伊藤 浩二
委員	M C L 盛岡医療大学校	副主任	佐々木智章
委員	大川学園医療福祉専門学校	学科長	霞 孝行
委員	アルファ医療福祉専門学校	学科長	中神 太一
委員	明治東洋医学院専門学校	事務局長	藤井 義巳
委員	福岡医療専門学校	副校長	藤瀬 正
委員	福岡天神医療リハビリ専門学校	学科長	小川 勝

## ❁❁❁❁ 編 集 後 記 ❁❁❁❁

2026年の新春を迎え、謹んでご挨拶申し上げます。

2025年は、日本、そして世界が大きな節目を迎えた一年となりました。

国内では、4月に大阪・関西万博が開幕し、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、医療・健康・先端技術の可能性が世界に向けて発信されました。会期中は国内外から多くの来場者を迎え、大盛況のうちに開催されました。人の健康と生活を支える私たちにとっても、未来社会における医療・健康分野の役割を考える貴重な機会となりました。

また、聴覚障害者のための国際的なスポーツ大会であるデフリンピックが東京で開催され、共生社会の実現に向けた取り組みが改めて注目されました。私も会場に足を運び、多様な人々がそれぞれの特性を尊重されながら社会参加できる環境が着実に整いつつあることを実感しました。

政治の分野では、高市早苗氏が首相に就任し、日本は初の女性首相のもとで新しい局面を迎えました。一方、団塊の世代がすべて75歳以上となる「2025年問題」が本格化し、少子高齢社会は次の段階へと進んでいます。医療・介護需要の増大や、それらを支える人材不足など、現場が抱える課題は一層深刻化しています。人口減少が進む中、持続可能な経済と社会保障制度の構築は、今後の日本にとって避けて通れない課題です。

さらに2025年は、AI技術の急速な発展が社会の在り方を大きく変え始めた年でもありました。第34回日本柔道整復接骨医学会においても、AI活用に関する発表が目立ち、教育や臨床現場への導入が今後さらに広がることが予測されます。その一方で、「人にしかできないこと」や「専門職の価値」が改めて問われています。

2026年が、変化の時代に対応できる柔道整復師を育成し、国民の健康と安心に一層貢献できる年となることを願い、編集後記といたします。

広報・調査委員会 委員

日本医専 片橋 るみ

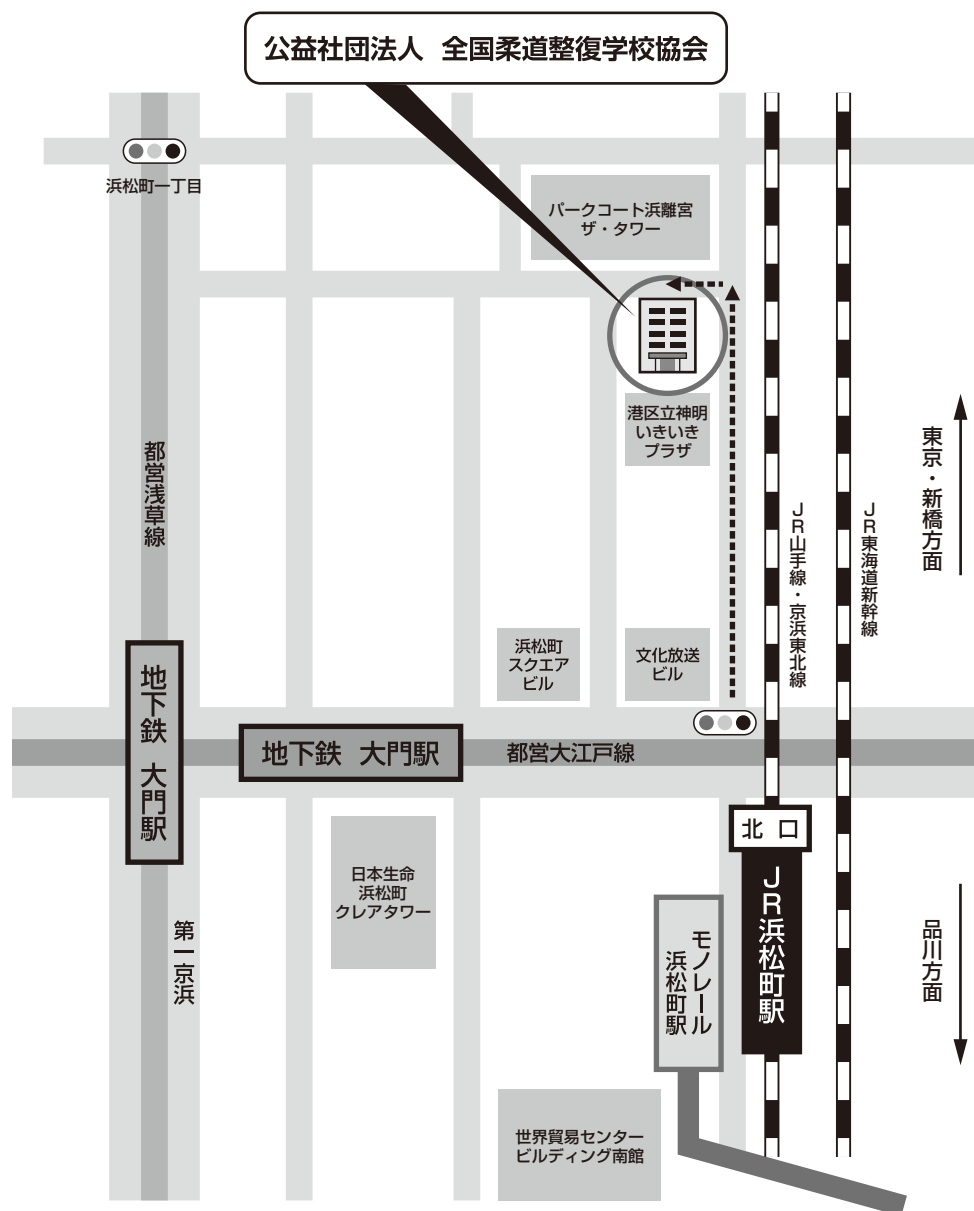
公益社団法人 全国柔道整復学校協会広報誌 **会 報** 第77号

令和8年1月 発行

発 行 所	公益社団法人 全国柔道整復学校協会
発 行 人	谷 口 和 彦
	〒105-0013 東京都港区浜松町1丁目6-2
	丸神ビル1階
電 話	03-5405-1690
F A X	03-5405-3790
ホームページ	<a href="https://www.judo-seifuku.or.jp/">https://www.judo-seifuku.or.jp/</a>

印 刷 所 大和綜合印刷株式会社

# 案内図



## アクセス

- ・JR「浜松町駅」北口より徒歩5分
- ・都営地下鉄浅草線「大門駅」B1より徒歩5分
- ・都営地下鉄大江戸線「大門駅」B1より徒歩5分

## 所在地

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

〒105-0013

東京都港区浜松町1丁目6-2丸神ビル1F

TEL：(03) 5405-1690 FAX：(03) 5405-3790



# 専科教員認定講習会

公益社団法人 全国柔道整復学校協会



公益社団法人 全国柔道整復学校協会は、  
専科教員資格取得のための講習会を  
開催しています。

教員資格を取得するためには、  
専科教員認定講習会の受講が必要です。

2 0 2 6 年 度	受講資格	4年以上の実務経験を有する方
	受講試験	2026年5月10日(日) (予定)
	申込期間	2026年3月1日(日)～3月31日(火)
	講習日程	2026年6月～10月の(土)・(日)・(祝)
	講習会場	東京会場・大阪会場 (予定)

詳細は、2026年3月に学校協会ホームページにて公開の予定です。



[www.judo-seifuku.or.jp](http://www.judo-seifuku.or.jp)

THE JAPAN ASSOCIATION OF JUDO-SEIFUKU COLLEGES

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

〒105-0013 東京都港区浜松町1丁目6-2 丸神ビル1階

TEL.03-5405-1690 FAX.03-5405-3790

